

BR-1000v

取扱説明書 [活用編]

このたびは、BR-1000vをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
この取扱説明書は、お読みになったあとも本商品のそばなど、いつも手もとに置いてお使いください。

IWATSU

はじめに

本書は、本製品で設定できるさまざまな機能について、各メニューの設定画面について詳しく説明しています。
取扱説明書[接続編]に記載されていない詳細な機能を設定するときなど、本書と併せてご覧ください。

表記について

本書は、次の規則にしたがって表記しています。

- 「 」表記……本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「 」)で囲んで表記します。
- [] 表記……各設定画面の設定項目名を([])で囲んで表記します。
- < > 表記……設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(< >)で囲んで表記します。

※本書は、Ver1.00のファームウェアを使用して説明しています。

登録商標について

- ©Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ©Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。
- ©Netscape Navigatorは、Netscape Communications Corporationの商標です。
- ©Adobe、Acrobatは、アドビシステムズ社の登録商標です。
- ©その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

もくじ

第1章	WAN側設定	3
第2章	ネットワーク設定	17
第3章	無線LAN設定	35
第4章	電話設定	47
第5章	VoIP設定	55
第6章	システム設定	75
第7章	通信記録	89
第8章	保存と初期化	91
第9章	ご参考に	95

この章では、
「WAN側設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

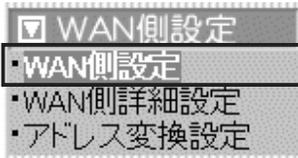
1-1.「WAN側設定」画面	4
■ 接続状況	4
■ 回線種別	5
■ 回線設定 PPPoE/DHCP	6
■ 接続設定(※ PPPoE 設定時)	7
1-2.「WAN側詳細設定」画面	8
■ 共通詳細設定	8
■ UPnP 設定	10
■ PPPoE 詳細設定	11
■ Windows Messenger の制限について	12
■ Messenger 機能対応表	13
1-3.「アドレス変換設定」画面	14
■ アドレス変換設定	14
■ パススルー設定	14
■ 静的マスカレードテーブル設定	15
■ DMZ ホスト機能と静的マスカレード機能の違い	15
■ 静的 NAT テーブル設定	16

1 「WAN側設定」メニュー

1-1.「WAN側設定」画面

■ 接続状況

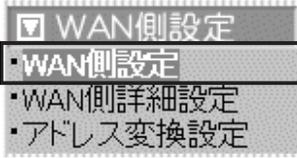
登録された回線への接続状況を表示します。



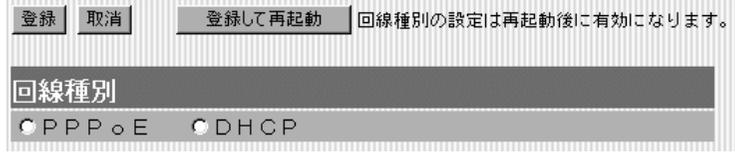
- ① 未接続/接続中 WAN側回線への接続状況を「未接続」/「接続中」で表示します。
[回線種別]項目で、「PPPoE」または「DHCP」を選んで〈登録して再起動〉をクリックすると、〈切断〉ボタンを表示します。
手動で回線を接続したり、切断するときには、このボタンをクリックします。
※ 〈接続〉ボタンは、選択した回線種別が有効になると表示されます。
- ② 回線種別 現在本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
設定されている接続方式および方法に応じて、「PPPoE(手動接続)」/「PPPoE(自動接続)」/「PPPoE(常時接続)」/「DHCP」のいずれかを表示します。
- ③ DNSサーバ 「PPPoE」または「DHCP」が設定されている場合、契約されているプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。
- ④ 本体側のIPアドレス 「PPPoE」または「DHCP」が設定されている場合、本製品のWAN側に設定されたIPアドレスを表示します。
- ⑤ 相手側のIPアドレス 「PPPoE」または「DHCP」が設定されている場合、契約されているプロバイダーのIPアドレスを表示します。
- ⑥ 接続時間 ご契約のプロバイダーに接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
最新の接続時間を表示させるときは、WWWブラウザの〈更新〉をクリックします。

1-1.「WAN側設定」画面(つづき)

■ 回線種別



本製品の回線種別についての設定です。

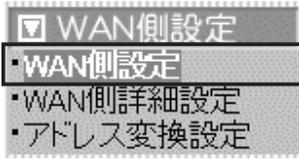


- 〈登録〉ボタン …………… [回線種別]項目以外の設定内容が有効になります。
 ※[回線種別]項目を変更した場合は、画面上で確定されますが、
 〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。
- 〈取消〉ボタン …………… 「WAN側設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお 〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- 〈登録して再起動〉ボタン …… 本製品を再起動して、「WAN側設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 回線種別 …………… ご契約のプロバイダーや接続業者から指定された回線種別を選択します。
 ◎PPPoE
 本製品をWAN側の回線に接続するとき使用します。
 WAN側のIPアドレスを、「PPPoE」で取得します。
 ◎DHCP
 本製品をWAN側の回線に接続するとき使用します。
 WAN側のIPアドレスを、「DHCP」クライアントで取得します。
 ※設定を有効にするためには、〈登録して再起動〉をクリックしてください。
 ※設定を初期化したときや、出荷時の状態では、どちらの回線にも設定されていませんが、有線と無線で接続されたパソコンが本製品を介してLANで通信することが可能です。

1 「WAN側設定」メニュー

1-1. 「WAN側設定」画面(つづき)

■ 回線設定 PPPoE/DHCP



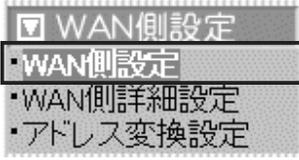
本製品のWAN側についての設定です。

※「PPPoE」設定時の画面を例に説明しています。
「DHCP」設定時は、[接続設定]項目は表示されません。

- 〈登録〉ボタン [回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑪)の内容を確認するボタンです。
- 〈取消〉ボタン [回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑪)の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- 〈接続〉ボタン (①)で選んだ接続先へ回線を接続するボタンです。
そのときの接続状況を[接続状況]項目(P4)の各欄に表示します。
- ① 接続先選択 <▼> をクリックして登録されている接続先、または「追加」を選んで接続先を追加できます。(最大8件まで登録可能)
接続先を追加するときは、[接続先選択]で「追加」を選択したあと、〈選択〉をクリックします。
〈選択〉をクリック後に、[回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑪)を入力してください。
- ② 〈選択〉ボタン [接続先選択](①)で選択した接続先の設定内容を表示させるボタンです。
このボタンをクリックすると、選択された接続先の設定を[回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑪)に表示します。
- ③ 〈削除〉ボタン [接続先選択](①)で選択した登録を削除するボタンです。

1-1. 「WAN側設定」画面

■ 回線設定 PPPoE/DHCP(つづき)



登録		取消		接続	
①		②		③	
回線設定	WAN01	選択	削除		
接続先名	④				
IPアドレス	⑤				
サブネットマスク	⑥			固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。	
デフォルトゲートウェイ	⑦				
プライマリDNSサーバ	⑧				
セカンダリDNSサーバ	⑨				
接続設定					
ユーザID	⑩				
パスワード	⑪				

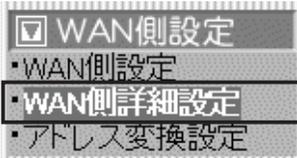
※「PPPoE」設定時の画面を例に説明しています。
「DHCP」設定時は、[接続設定]項目は表示されません。

- ④ **接続先名** ご契約になっているプロバイダーの名前を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
入力した名前は、[接続先選択](①)に表示されます。
- ⑤ **IPアドレス** ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。
- ⑥ **サブネットマスク** ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたときに限り、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。
- ⑦ **デフォルトゲートウェイ** ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定されたときに限り、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。
- ⑧ **プライマリDNSサーバ** プロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。
- ⑨ **セカンダリDNSサーバ** プロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。
- **接続設定**(※PPPoE設定時) **接続先からの指定に応じて入力します。**
- ⑩ **ユーザID** プロバイダーから指定されたログインユーザー名またはアカウント名を大文字/小文字の表記に注意して、入力します。
- ⑪ **パスワード** プロバイダーから指定されたログインパスワードを大文字/小文字の表記に注意して、入力します。

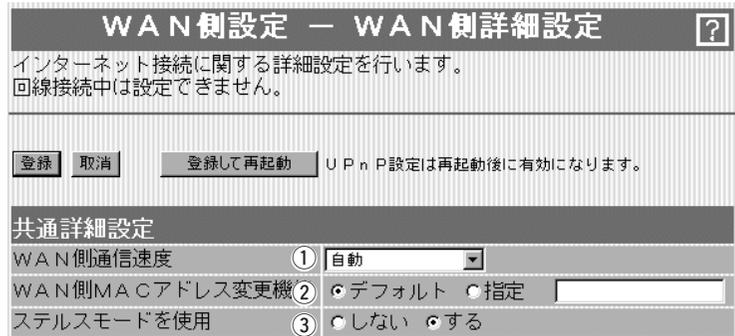
1 「WAN側設定」メニュー

1-2.「WAN側詳細設定」画面

■ 共通詳細設定



本製品のWAN側回線に共通する詳細設定です。



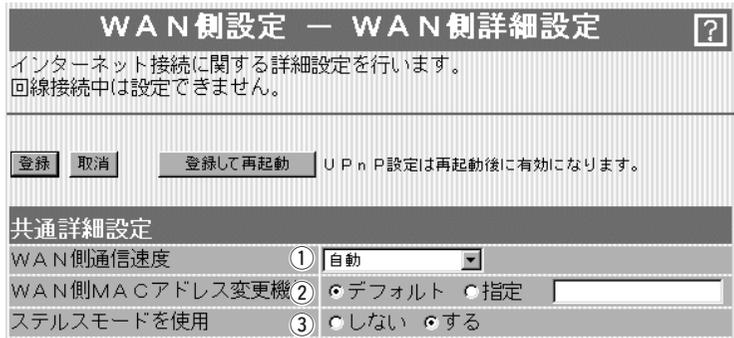
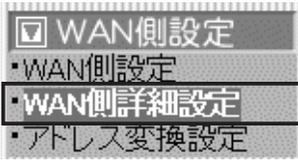
※「DHCP」設定時は、[共通詳細設定]項目と[UPnP設定]項目だけを表示します。

- 〈登録〉ボタン 「WAN側詳細設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
[UPnP設定]項目以外の設定内容が有効になります。
※[UPnP設定]項目の変更内容は、画面上で確定されるだけですの
で、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。
- 〈取消〉ボタン 「WAN側詳細設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態
に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- 〈登録して再起動〉ボタン 本製品を再起動して、「WAN詳細設定」画面で変更したすべての設
定内容が有効になります。
- ① WAN側通信速度 本製品とEthernetケーブルで接続された機器間のリンクスピード
の設定です。 (出荷時の設定：自動)
◎自動：本製品の[WAN]ポートに接続されている機器の通信速度
に合わせて自動で設定されます。
◎100(Half Duplex)：
[100Mbps(Half Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、
[100Mbps(Half Duplex)]に対応しているとき設定でき
ます。
◎100(Full Duplex)：
[100Mbps/Full Duplex]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続している機器が、
[100Mbps(Full Duplex)]に対応しているとき設定でき
ます。

次ページにつづく

1-2. 「WAN側詳細設定」画面

■ 共通詳細設定(つづき)



※「DHCP」設定時は、[共通詳細設定]項目と[UPnP設定]項目だけを表示します。

① WAN側通信速度(つづき) ……

◎10(Half Duplex) :

[10Mbps(Half Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、
[10Mbps/Half Duplex]に対応しているとき設定できま
す。

◎10(Full Duplex) :

[10Mbps(Full Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、
[10Mbps/Full Duplex]に対応しているとき設定できま
す。

② WAN側MACアドレス

変更機能 ……

インターネットを、すでにMACアドレス登録が必要なプロバイダ
ーでご使用の場合、登録された機器のMACアドレスで対応できま
す。 (出荷時の設定：デフォルト)
登録している機器のMACアドレスを入力したときは、「指定」のラ
ジオボタンをクリックしてから「登録」をクリックします。

△警告

この機能をご利用になるときは、登録されているMACアドレスを
よく確認していただき、設定値を間違えないように注意してくださ
い。

設定値を誤ってご使用になられたことにより生じる結果については、
一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

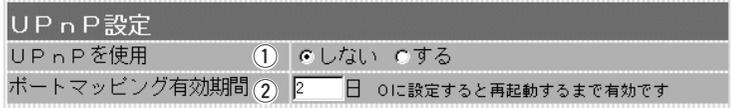
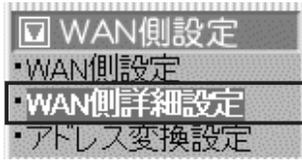
③ ステルスモードを使用 ……

インターネットを使用して本製品に不正アクセスされた場合、
Pingやポートスキャンに対して防御するかしないかの設定です。
(出荷時の設定：する)

1 「WAN側設定」メニュー

1-2.「WAN側詳細設定」画面(つづき)

■ UPnP設定



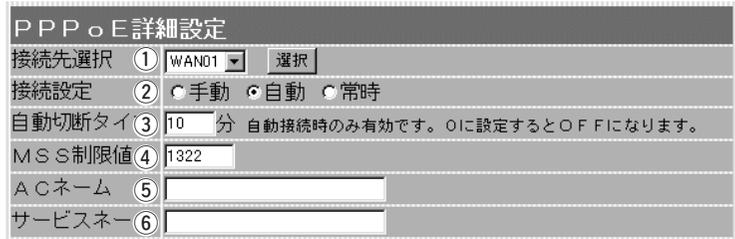
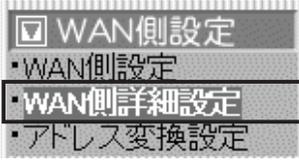
※「DHCP」設定時は、[共通詳細設定]項目と[UPnP設定]項目だけを表示します。

- ① UPnPを使用 …………… UPnP(Universal Plug and Play)機能を使用するかしないかの設定です。 (出荷時の設定：しない)
UPnPを使用すると、NATトラバーサル対応のアプリケーションを、本製品のLAN側に有線LANや無線LANで接続されたパソコンから利用できます。
※使用時は、セキュリティが低下しますので注意が必要です。
〈本製品のUPnP機能について〉
2003年5月現在、下記のアプリケーションが本製品のUPnP(NATトラバーサル)機能に対応しています。
◎Windows Messenger (Version4.6以上)
Windows XP専用アプリケーション
◎MSN Messenger (Version4.6以上)
Windows 98/98SE/Me/2000専用アプリケーション
※MSN Messengerで音声チャットを行う場合は、「DirectX」のバージョン8.1以上が必要です。
※あらかじめIPフィルターを設定しているポートをMessengerで使用した場合は、UPnP機能が優先します。
※アプリケーションをバージョンアップする必要がある場合は、「Windows Update」などから行ってください。
- ② ポートマッピング有効期間 …… UPnP(NATトラバーサル)対応アプリケーションなどを使用するために、WAN側に対してポートを開いている期間を日数で設定します。
最大9999日まで設定できます。 (出荷時の設定：2)
※「0」日を設定すると、アプリケーションを正しく終了しなかった場合など、本製品を再起動するまでポートが開いたままになりますのでご注意ください。

1-2.「WAN側詳細設定」画面(つづき)

■ PPPoE詳細設定

「PPPoE」で使用する時設定します。



※回線種別を「DHCP」に設定したときは、表示されません。

- ① 接続先選択 設定する接続先を選択します。
「WAN側設定」画面の[回線設定 PPPoE/DHCP]項目で登録した接続先ごとの設定を詳細にできます。
- ② 接続設定 回線への接続方法を選択します。 (出荷時の設定：自動)
 - ◎手動：「WAN側設定」画面の〈接続〉/〈切断〉ボタンで、回線を強制的に接続/切断します。
 - ◎自動：パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的に接続します。
 - ◎常時：常時接続します。
本製品で指定した接続先(WAN側)と常に接続状態を保持します。
- ③ 自動切断タイマ [接続設定]欄で「自動」を設定している場合、WAN側への送出パケットがなくなってから回線を切断するまでの時間を分で入力します。 (出荷時の設定：10)
設定できる範囲は、「0(自動切断しない)~65535」です。
- ④ MSS制限値 プロバイダーから指定されている場合に限り、WAN側回線への最大有効データ長を数字で指定します。 (出荷時の設定：1322)
設定できる範囲は、「536~1452」です。
MSS値とは、受信できる最大セグメント数のことです。
イーサネットパケットの最大長(MTU)は1500バイトと定められています。
これに対して、「PPPoE」や「フレッツ・ADSL」の最大データサイズは1322より小さい値となっていますが、現行のインターネットルータには、オーバーサイズのパケットを破棄するものがあります。よって、パケットの保護を優先するために小さめに設定しておく必要があります。

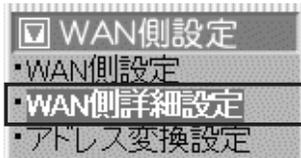
△警告

弊社では、MSS値を変更したことによって生じる結果については一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

1 「WAN側設定」メニュー

1-2. 「WAN側詳細設定」画面

■ PPPoE詳細設定(つづき)



PPPoE詳細設定		
接続先選択 ①	WAN01	選択
接続設定 ②	<input type="radio"/> 手動 <input checked="" type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 常時	
自動切断タイ ③	10	分 自動接続時のみ有効です。0に設定するとOFFになります。
MSS制限値 ④	1322	
ACネーム ⑤	<input type="text"/>	
サービスネーム ⑥	<input type="text"/>	

※回線種別を「DHCP」に設定したときは、表示されません。

- ⑤ ACネーム プロバイダーから指定されている場合に限り、指定のアクセスコンセントレーター名を入力します。
- ⑥ サービスネーム プロバイダーから指定されている場合に限り、指定のサービスネームを入力します。

■ Windows Messengerの制限について

- 〈制限〉
- ◎通信相手もUPnP対応ルーターを使用しているか、グローバルIPアドレスが割り当てられている必要があります。
 - ◎Messengerでの音声チャットなどは、プロバイダーや接続業者から割り当てられるIPアドレスがプライベートIPアドレスの場合、使用できません。
 - ◎静的マスカレードで使用しているポートが多い場合、Messengerの起動が遅かったり音声チャット等が利用できないことがあります。

- 〈再起動が必要な場合〉
- 下記のような原因でMessengerが使用できなくなったときは、Messengerを完全に終了してから再度起動してください。
- ◎Messengerを起動させた状態でポートマッピングの有効期間を経過したとき
 - ◎Messenger起動後にNATおよび静的マスカレードの設定を変更したとき
 - ◎パソコンがスリープ状態になったとき

1-2.「WAN側詳細設定」画面(つづき)

■ **Messenger機能対応表** 出荷時、UPnP機能は、「使用しない」に設定されています。

■ : UPnPが必要な機能を意味します。

○ : 対応 × : 非対応

アプリケーション	機能	UPnP機能を使用する	UPnP機能を使用しない(出荷時)
Windows Messenger ※Windows XP専用	サインイン	○	○
	メンバーの追加	○	○
	インスタントメッセージ	○	○
	音声チャット	○ (Version 4.6以上)	×
	ビデオチャット	○ (Version 4.6以上)	×
	アプリケーション共有	○ (Version 4.6以上)	×
	ホワイトボード	○ (Version 4.6以上)	×
	ファイル転送	×	×
	電話をかける	×	×
リモートアシスタンス ※Windows XP専用	デスクトップの制御	○ (Version 4.6.0082以上)	×
	音声会話	○ (Version 4.6.0082以上)	×
	ファイル転送	○ (Version 4.6.0082以上)	×
MSN Messenger ※Windows 98 Windows 98SE Windows Me Windows 2000	サインイン	○	○
	メンバーの追加	○	○
	インスタントメッセージ	○	○
	音声チャット	○ (Version 4.6以上、 DirectX8.1以上)	×
	ファイル転送	×	×
NetMeeting	すべての機能	×	×

※相手のパソコンとIP電話する場合、「Windows Messenger」または「MSN Messenger」の音声チャット機能を利用します。

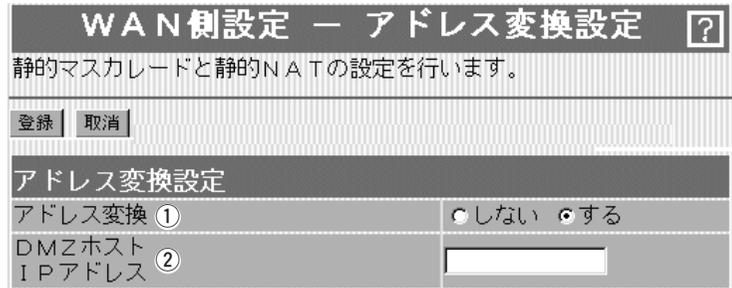
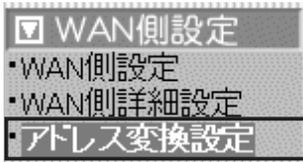
音声チャット機能を利用して本製品とIP電話するときは、本書9-1章で説明するバージョンの「Windows Messenger」または「MSN Messenger」でご使用ください。

1 「WAN側設定」メニュー

1-3.「アドレス変換設定」画面

■ アドレス変換設定

アドレス変換機能を設定します。



〈登録〉ボタン 「アドレス変換設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン 「アドレス変換設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

① アドレス変換 静的マスカレード機能、静的NAT機能を使用して、指定したグローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：する)

② DMZホストIPアドレス DMZホスト機能(非武装セグメント)を使用するホストのIPアドレスを入力します。
DMZホスト機能を使うと、WAN(インターネット)側から発信されたすべてのIPフレームを、LAN側に存在する特定IPアドレスへ転送できます。
転送することにより、BR-1000vのLAN側に存在するパソコンでWWWサーバを運用したり、ネットワーク対戦ゲームなどが行えますが、セキュリティ上問題がありますのでご使用には十分注意してください。

■ パススルー設定

インターネット経由で社内LANの仮想プライベートネットワーク(VPN)サーバにアクセスするとき設定します。

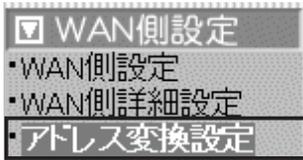


マルチプロトコル仮想プライベートネットワーク(VPN)をサポートするネットワーク技術で、クライアントからのPPTPパケットをWAN側に転送するかしないかの設定です。

(出荷時の設定：する)

1-3.「アドレス変換設定」画面(つづき)

■ 静的マスカレードテーブル設定



IPマスカレード変換を静的に行う設定です。



マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。

- ◎ローカルIP：プライベートIPアドレスを入力します。
 - ◎プロトコル：TCP、UDP、TCP/UDP、GREから選択します。
 - ◎ポート：選択したプロトコルに対するポートを数字で指定するときは、「指定」を選択します。
数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。
 - ◎開始ポート：プロトコルに対する開始ポート番号を入力します。
 - ◎終了ポート：プロトコルに対する終了ポート番号を入力します。
- ※入力後は「追加」をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

■ DMZホスト機能と静的マスカレード機能の違い

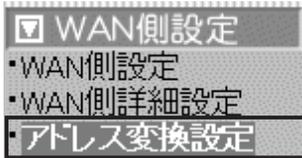
DMZホスト機能	静的マスカレード機能
プロトコルやポート番号の指定が不要。	プロトコルやポート番号の指定が必要。
転送先として指定できるホストのIPアドレスは、1つだけである。	異なるプロトコルやポート番号ごとに、複数の転送先を設定できる。
転送先の変更が容易にできる。	転送先は、プロトコルやポート番号ごとに指定されているため、変更が複雑である。
転送先に指定したホストについては、セキュリティが低下する。	静的マスカレードテーブルに登録していないプロトコルやポート番号は、遮断される。

1 「WAN側設定」メニュー

1-3.「アドレス変換設定」画面(つづき)

■ 静的NATテーブル設定

グローバルとプライベートのIPアドレス変換を行う設定です。



静的NATテーブル設定			
登録の追加			
グローバルIP	-	ローカルIP	
<input type="text"/>	-	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録			
グローバルIP	-	ローカルIP	

プロバイダーおよび接続業者との契約で、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。

最大32個のNATテーブルを設定できます。

◎グローバルIP：指定されたグローバルIPアドレスを入力します。

◎ローカルIP：任意のプライベートIPアドレスを入力します。

※入力後は〈追加〉をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

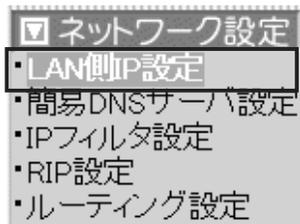
この章では、
「ネットワーク設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

2-1.「LAN側IP設定」画面	18
■ 本体名称/IPアドレス設定	18
■ DHCPサーバ設定	20
■ 静的DHCPサーバ設定	22
2-2.「簡易DNSサーバ設定」画面	23
■ DNSサーバ設定	23
■ 簡易DNSサーバ設定	24
■ URLフィルタ設定	24
2-3.「IPフィルタ設定」画面	25
■ 登録の追加	25
■ 登録リスト	29
2-4.「RIP設定」画面	30
■ RIP設定	30
2-5.「ルーティング設定」画面	32
■ ネットワーク インターフェイス リスト	32
■ IP経路情報	32
■ スタティックルーティング設定	33

2 「ネットワーク設定」メニュー

2-1. 「LAN側IP設定」画面

■ 本体名称/IPアドレス設定



本製品の名称とLAN側IPアドレスを設定します。

The screenshot shows the 'LAN側IP設定' (LAN Side IP Setting) screen. At the top, it says 'ネットワーク設定 — LAN側IP設定'. Below that, it says '本体をネットワークに接続するための設定を行います。' (Configure settings for connecting the device to the network). There are buttons for '登録' (Register), '取消' (Cancel), and '登録して再起動' (Register and Restart). A note says '本体IPアドレス/サブネットマスクの設定は再起動後に有効になります。' (The setting of the device IP address/subnet mask is effective after restart). The main section is titled '本体名称/IPアドレス設定' (Device Name/IP Address Setting) and contains three input fields: '本体名称' (Device Name) with value 'BR-1000v', 'IPアドレス' (IP Address) with value '192.168.0.1', and 'サブネットマスク' (Subnet Mask) with value '255.255.255.0'.

〈登録〉ボタン …………… [IPアドレス]欄と[サブネットマスク]欄以外の設定内容が有効になります。
※[IPアドレス]欄と[サブネットマスク]欄の変更内容は、画面上で確定されるだけですので、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン …………… 「LAN側IP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン …………… 本製品を再起動して、「LAN側IP設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

① 本体名称 …………… ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。
設定した名前は、本製品のLAN側に接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使えます。
(出荷時の設定：BR-1000v)

入力形式：[http://web.本体名称/]

この場合、[DHCPサーバ設定]項目の[DNS代理応答を使用]欄を「する」(出荷時の設定)に設定しておく必要があります。

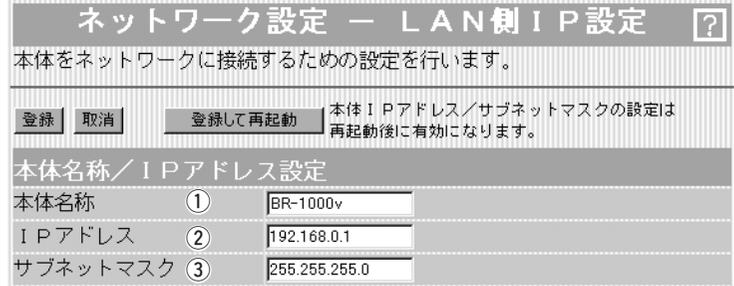
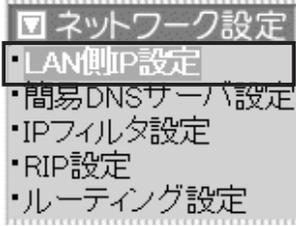
また、ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A～Z、0～9、-)、31文字以内で設定します。

※登録できない文字は、「# % / : ? @ ¥ '」の8種類です。

※全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNSサーバの代理応答機能は利用できなくなります。

2-1.「LAN側IP設定」画面

■ 本体名称/IPアドレス設定(つづき)



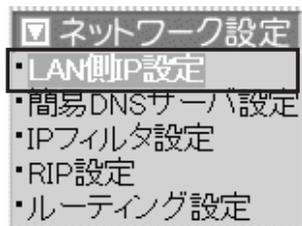
- ② IPアドレス 本製品のLAN側IPアドレスを入力します。
 (出荷時の設定：192.168.0.1)
 本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークIPアドレスに変更してください。
 ※本製品のDHCPサーバ機能を使用する場合は、[DHCPサーバ設定]項目の[割り当て開始IPアドレス]欄についてもネットワーク部を同じに設定してください。
 ※LAN側IPアドレスが「192.168.0.1」のルータタイプモデムに接続する場合は、「192.168.0.250」に変更してください。
 また、「192.168.1.1」の場合は、「192.168.1.250」に変更してください。
 なお、ルータタイプモデムのDHCPサーバ機能を使用する場合は、[DHCPサーバ設定]項目の[DHCPサーバ機能を使用]欄を「しない」に変更してください。
- ③ サブネットマスク 本製品のサブネットマスク(同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲)を設定します。 (出荷時の設定：255.255.255.0)
 本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。
[例]
 サブネットマスクを「255.255.255.248」と設定する場合、「192.168.0.2～192.168.0.6」が同じネットワークとしてパソコンに割り当てできます。
 この場合、下記のIPアドレスはパソコンに割り当てできません。
 「192.168.0.0」：ネットワークアドレス
 「192.168.0.1」：本製品のLAN側IPアドレス
 「192.168.0.7」：ブロードキャストアドレス

2 「ネットワーク設定」メニュー

2-1. 「LAN側IP設定」画面(つづき)

■ DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能についての設定です。



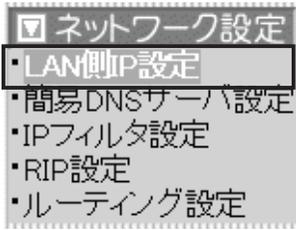
DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能を使①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス②	<input type="text" value="192.168.0.10"/>
割り当て個数③	<input type="text" value="30"/> 個
サブネットマスク④	<input type="text" value="255.255.255.0"/>
リース期間⑤	<input type="text" value="72"/> 時間
ドメイン名⑥	<input type="text"/>
デフォルトゲートウェイ⑦	<input type="text" value="192.168.0.1"/>
プライマリDNSサーバ⑧	<input type="text"/>
セカンダリDNSサーバ⑨	<input type="text"/>
プライマリWINSサーバ⑩	<input type="text"/>
セカンダリWINSサーバ⑪	<input type="text"/>

DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。

- ① DHCPサーバ機能を使用 …… 本製品をDHCPサーバとして使用するかしないかを設定します。本製品のLAN側に有線および無線で接続しているパソコンのTCP/IP設定を、「IPアドレスを自動的に取得する」と設定している場合、本製品のDHCPクライアントになります。この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。(出荷時の設定：する)
※簡単接続設定ウィザードでルータタイプモデムを使用すると選択した場合、初期値は「しない」に設定されます。
- ② 割り当て開始IPアドレス …… 本製品に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。(出荷時の設定：192.168.0.10)
- ③ 割り当て個数 …… [割り当て開始IPアドレス]欄に設定されたIPアドレスから連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数は、0～128(無線LANで接続するパソコンを含む)までです。(出荷時の設定：30)
※128個を超える分については、設定できませんので手動でクライアントに割り当ててください。
※「0」を設定したときは、自動割り当てを行いません。
- ④ サブネットマスク …… [割り当て開始IPアドレス]欄に設定されたIPアドレスに対するサブネットマスクです。(出荷時の設定：255.255.255.0)
- ⑤ リース期間 …… DHCPサーバがローカルIPアドレスを定期的に自動でパソコンに割り当てなおす期限を時間で指定します。設定できる範囲は、「1～9999」です。(出荷時の設定：72)

2-1.「LAN側IP設定」画面

■ DHCPサーバ設定(つづき)



DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能を使	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10
割り当て個数	30 個
サブネットマスク	255.255.255.0
リース期間	72 時間
ドメイン名	
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	
プライマリWINSサーバ	
セカンダリWINSサーバ	

DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。

- ⑥ **ドメイン名** ドメイン名を使用しているときや、プロバイダーからドメイン名を指定されたときなど必要があれば、DHCPサーバが有線および無線で接続するパソコンに通知するネットワークアドレスのドメイン名を、入力(半角英数字：127文字以内)します。

- ⑦ **デフォルトゲートウェイ** ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定された場合に限り、LAN側に通知するゲートウェイを入力します。
(出荷時の設定：192.168.0.1)

- ⑧ **プライマリDNSサーバ**..... 本製品のDHCPサーバ機能を使用する場合に有効な機能で、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
※[DNS代理応答を使用]欄を「する」(出荷時の設定)に設定する場合は、無効になります。

- ⑨ **セカンダリDNSサーバ**..... [プライマリDNSサーバ]欄と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。
※DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効になります。

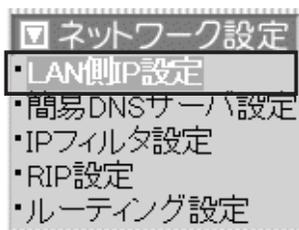
- ⑩ **プライマリWINSサーバ** Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。
WINSサーバのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。

- ⑪ **セカンダリWINSサーバ** 「プライマリWINSサーバ」と同様に、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

2 「ネットワーク設定」メニュー

2-1.「LAN側IP設定」画面(つづき)

■ 静的DHCPサーバ設定



特定のパソコンに割り当てるIPアドレスを固定するときの設定です。

静的DHCPサーバ設定		
登録の追加		
MACアドレス	IPアドレス	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録		
MACアドレス	IPアドレス	

DHCPサーバ機能を使用して自動的に割り当てるIPアドレスを、特定のパソコンに固定するとき、パソコンのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。

※入力後は、〈追加〉をクリックしてください。

※最大16個の組み合わせまで登録できます。

登録するパソコンのIPアドレスは、DHCPサーバ機能による割り当て範囲および本製品のIPアドレスと重複しないように指定してください。

【登録例】

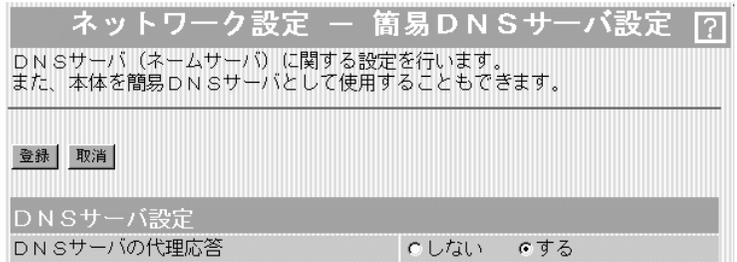
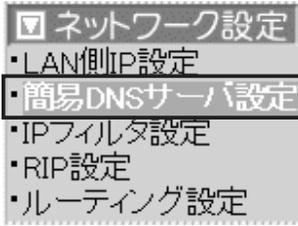
登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

現在の登録		
MACアドレス	IPアドレス	
00-90-C7-3F-00-14	192.168.0.50	<input type="button" value="削除"/>

2-2.「簡易DNSサーバ設定」画面

■ DNSサーバ設定

DNSサーバの代理応答についての設定です。



〈登録〉ボタン 「簡易DNSサーバ設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

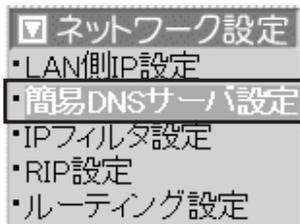
〈取消〉ボタン 「簡易DNSサーバ設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

DNSサーバの代理応答 本製品を代理DNSサーバとして使用するかしないかの設定です。
 代理DNSサーバ機能とは、パソコンからのDNS要求をプロバイダー側のDNSサーバへ転送する機能です。（出荷時の設定：する）
 代理DNSサーバ機能を利用すると、ネットワーク上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定している場合、本製品が接続する先のDNSサーバのアドレスが変更になったときでも、パソコンの設定を変更する必要がありませんので便利です。

2 「ネットワーク設定」メニュー

2-2.「簡易DNSサーバ設定」画面(つづき)

■ 簡易DNSサーバ設定



パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組み合わせを登録します。

簡易DNSサーバ設定	
(DNSサーバの代理店客機能を有効にしておく必要があります。)	
登録の追加	
IPアドレス	ホスト名
<input type="text"/>	<input type="text"/> <input type="button" value="追加"/>
現在の登録	
IPアドレス	ホスト名

代理DNSサーバ機能を使うとき、本製品を簡易DNSサーバとして使用できます。

簡易DNSサーバを使用する場合、パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。

簡易DNSサーバ機能を使用すると、ドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応じます。

ホスト名として「ホスト名.ドメイン名」を登録しておく、ホスト名のみ一致する場合でも応答が返されます。

※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックしてください。

※最大16個の組み合わせまで登録できます。

※ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静的DHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。

■ URLフィルタ設定

特定Webの閲覧を制限するときなどに登録します。

URLフィルタ設定			
登録の追加			
相手先URL	発信元IP	動作	
<input type="text"/>	<input type="text"/>	破棄する	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録			
相手先URL	発信元IP	動作	

この画面に登録されたURL情報や発信元のIPアドレスをもとに、特定の発信先へのデータを遮断します。

[登録の追加(相手先URL)]欄には、ワイルドカードとして、「?」「*」が使用できます。また「?」は任意の1文字、「*」は任意の文字列として認識されます。たとえば、「*.iwatsu.co.jp」を指定したときは、「www.iwatsu.co.jp」や「mail.iwatsu.co.jp」へのデータが遮断されます。

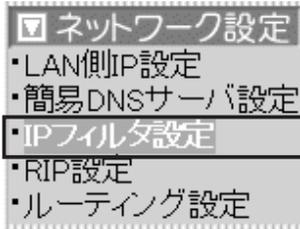
※この機能を利用するときは、本製品の代理DNSサーバ機能を併用してください。

※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックしてください。

※最大32個の組み合わせまで登録できます。

2-3.「IPフィルタ設定」画面

■ 登録の追加



特定条件を満たす内部または外部からのパケットを通過させたり、通過を阻止させるフィルターの設定です。



① <追加> ボタン…………… [登録の追加]項目で作成、または編集した内容をフィルターとして追加するボタンです。

追加されると、[登録の追加]項目の下にある[現在の登録](登録リスト)項目に、その内容を表示します。

※フィルター条件は、1つ以上指定してください。

② 番号 ……………

最大64件のフィルターを登録できます。

入力できる範囲は、「1～64」です。

フィルターを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに、登録リストに表示されたフィルターと比較します。

[番号]欄では、フィルターを比較する順位を指定します。

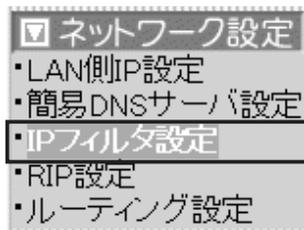
フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。

フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。

2 「ネットワーク設定」メニュー

2-3.「IPフィルタ設定」画面

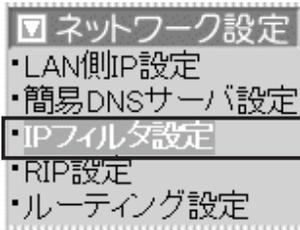
■登録の追加(つづき)



- ③ フィルタ方向 …………… パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルタの対象となる方向を設定します。
以下の中から選択してください。
- ◎WAN側から：WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
※フィルタリング処理は、アドレス変換のあとに行います。
 - ◎LAN側から：本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
※フィルタリング処理は、アドレス変換の前に行います。
 - ◎両方：本製品からWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
- ④ フィルタ方法 …………… フィルタリングの方法は、以下の3通りから選択します。
- ◎遮断：回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
 - ◎透過：回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。

2-3.「IPフィルタ設定」画面

■登録の追加(つづき)



The screenshot shows the 'IPフィルタ設定' (IP Filter Settings) page. At the top, it says 'IPフィルタの設定を行います。' (Configure IP filter settings). Below is a '登録の追加' (Add Registration) section with a '追加' (Add) button. The form fields are:

- ② 番号 (Number): []
- ③ フィルタ方向 (Filter Direction): Radio buttons for WAN側から (selected), LAN側から, and 両方 (Both).
- ④ フィルタ方法 (Filter Method): Radio buttons for 遮断 (Block) (selected) and 透過 (Pass).
- ⑤ プロトコル (Protocol): A dropdown menu set to 'すべて' (All) and a '指定時:' (When Specified) field.
- ⑥ 発信元ポート番号 (Source Port Number): A dropdown menu set to '指定' (Specify) and two '指定時:' (When Specified) fields for start and end.
- ⑦ 宛先ポート番号 (Destination Port Number): A dropdown menu set to '指定' (Specify) and two '指定時:' (When Specified) fields for start and end.
- ⑧ 発信元IPアドレス (Source IP Address): Two input fields for start and end.
- ⑨ 宛先IPアドレス (Destination IP Address): Two input fields for start and end.

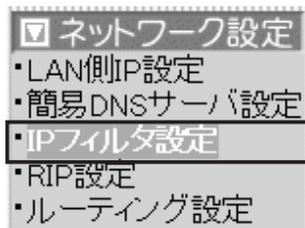
- ⑤ プロトコル フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。
- ◎指定 : 右のテキストボックスに、IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。
プロトコル番号は、10進数で0~255までの半角数字を入力してください。
 - ◎すべて : すべてのプロトコルの条件に一致します。
 - ◎TCP : TCPプロトコルの条件だけに一致します。
 - ◎TCP_FIN : TCP_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
 - ◎TCP_EST : TCP_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
 - ◎UDP : UDPプロトコルの条件だけに一致します。
 - ◎ICMP : ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
 - ◎GRE : GREプロトコルの条件だけに一致します。

- ⑥ 発信元ポート番号 フィルタリングの対象となる発信元のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。
- 数字で指定するときは、「指定」を選択して、番号を始点から終点まで連続で入力します。
- 入力できる範囲は、10進数で「1~65535」までの半角数字です。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
- 数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。

2 「ネットワーク設定」メニュー

2-3.「IPフィルタ設定」画面

■登録の追加(つづき)



ネットワーク設定 — IPフィルタ設定	
IPフィルタの設定を行います。	
登録の追加 ① <input type="button" value="追加"/>	
番号	② <input type="text"/>
フィルタ方向	③ <input type="radio"/> WAN側から <input checked="" type="radio"/> LAN側から <input type="radio"/> 両方
フィルタ方法	④ <input checked="" type="radio"/> 遮断 <input type="radio"/> 透過
プロトコル	⑤ <input type="text" value="すべて"/> 指定時: <input type="text"/>
発信元ポート番号	⑥ <input type="text" value="指定"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先ポート番号	⑦ <input type="text" value="指定"/> 指定時: <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
発信元IPアドレス	⑧ <input type="text"/> ~ <input type="text"/>
宛先IPアドレス	⑨ <input type="text"/> ~ <input type="text"/>

- ⑦ 宛先ポート番号 フィルタリングの対象となる宛先のTCP/UDPポート番号をを指定する項目です。
数字で指定するときは、「指定」を選択して、番号を始点から終点まで連続で入力します。
入力できる範囲は、10進数で「1～65535」までの半角数字です。
また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。
- ⑧ 発信元IPアドレス 発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。
何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
発信元ホストのIPアドレスを始点から終点まで連続で入力します。
また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。
- ⑨ 宛先IPアドレス 宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。
始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
宛先ホストのIPアドレスを始点から終点まで連続で入力します。
また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

2-3.「IPフィルタ設定」画面(つづき)

■ 登録リスト

現在の登録									
		番号	方向	方法	プロトコル	発信元ポート番号	宛先ポート番号	発信元IPアドレス	宛先IPアドレス
編集	削除	59	WAN側から	透過	TCP	20	*	*	*
編集	削除	60	WAN側から	遮断	TCP_EST	*	*	*	*
編集	削除	61	両方	遮断	ALL	137 - 139	*	*	*
編集	削除	62	両方	遮断	ALL	445	*	*	*
編集	削除	63	両方	遮断	ALL	*	137 - 139	*	*
編集	削除	64	両方	遮断	ALL	*	445	*	*

現在の登録 現在登録されているIPフィルタを表示します。

【出荷時、登録されているフィルタについて】

- ◎59番 : FTPをデフォルトで通過させる
- ◎60番 : WAN側からの不正パケット防止
- ◎61～64番 : WAN側に対して、Windowsのファイル/プリンター共有サービスを遮断する

〈編集〉ボタン

〈編集〉ボタンの右の欄に表示されたIPフィルタを編集するボタンです。

編集する欄の〈編集〉ボタンをクリックすると、その内容を[登録の追加]項目の各欄に表示します。

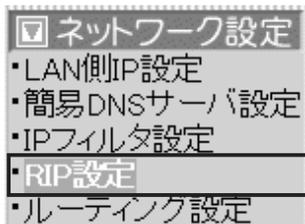
〈削除〉ボタン

〈削除〉をクリックすると、その右の欄に表示されたIPフィルタが削除されます。

2 「ネットワーク設定」メニュー

2-4.「RIP設定」画面

■ RIP設定



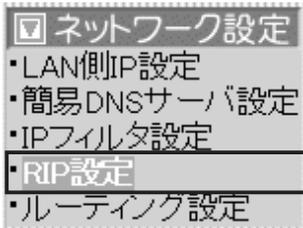
隣接ルータやアクセスポイントと経路情報を交換して、経路を動的に作成するときに使用します。

A screenshot of the 'ネットワーク設定 - RIP設定' (Network Settings - RIP Settings) page. The page title is 'ネットワーク設定 - RIP設定'. Below the title, it says 'RIPの設定を行います。' (Configure RIP settings). There are three buttons: '登録' (Register), '取消' (Cancel), and '登録して再起動' (Register and Restart). A note says 'このページの設定は再起動後に有効になります。' (Settings on this page are effective after a restart). The main configuration area is titled 'RIP設定' and contains three rows: 'RIP設定' (1) with a dropdown menu set to '使用しない' (Not used); 'LAN側RIP動作' (2) with a dropdown menu set to '受信のみ' (Receive only); and '認証キー' (3) with an empty text input field.

- 〈登録〉ボタン …………… 「RIP設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。
- 〈取消〉ボタン …………… 「RIP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- 〈登録して再起動〉ボタン …………… 本製品を再起動して、「RIP設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。
- ① RIP設定 …………… RIPの種類を選択します。 (出荷時の設定：使用しない)
◎使用しない：経路を静的に作成するときの設定です。
◎RIP : RIPの「Version1」を使用します。
◎RIP2(マルチキャスト) :
RIPの「Version2」を使用して、マルチキャストアドレスにパケットを送信します。
◎RIP2(ブロードキャスト) :
RIPの「Version2」を使用して、ブロードキャストアドレスにパケットを送信します。
- 【RIP2について】**
RIP2は、可変長サブネットマスクに対応していますので、イントラネット環境でも利用できます。
受信については、ブロードキャスト/マルチキャストの区別なく受け入れます。
- ② LAN側RIP動作 …………… RIPを使用する場合に有効な設定で、LAN側の隣接ルータやアクセスポイントと経路情報を動的に交換する動作を「受信のみ」、または「送信も受信も行う」から選択します。
(出荷時の設定：受信のみ)

2-4.「RIP設定」画面

■ RIP設定(つづき)



③ 認証キー

[RIP設定](①)欄で、「RIP2(マルチキャスト)」,または「RIP2(ブロードキャスト)」を設定している場合、そのRIP動作を認証するためのキーを入力します。

[RIP設定](①)欄で、「RIP」または、「使用しない」を選択している場合は、空白にします。

キーの入力には、大文字/小文字の区別に注意して、半角31文字以内で入力します。

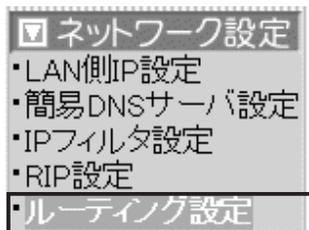
認証キーの入力は、他のルータやアクセスポイントに設定されている認証キーと同じ設定にします。

※認証キーを設定すると、「RIP」を設定しているゲートウェイと、異なる認証キーを設定している「RIP2」および、認証キーを設定していない「RIP2」ゲートウェイからのRIPパケットを破棄します。

2 「ネットワーク設定」メニュー

2-5.「ルーティング設定」画面

■ ネットワーク インターフェイス リスト



下記に説明する[IP経路情報]項目に表示された[経路] (④)について、その詳細を表示します。

ネットワーク設定 - ルーティング設定		
通信経路 (ルート) に関する設定を行います。		
ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	サブネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

■ IP経路情報

ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータ、またはどの端末に配送すべきかの情報を表示します。

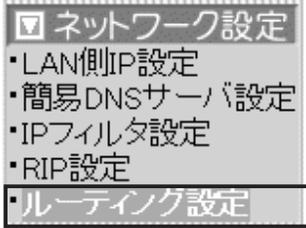
この項目には、[スタティックルーティング設定]項目で追加した経路も表示されます。

IP経路情報					
宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	経路	作成	メトリック
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

- ① 宛先 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ② サブネットマスク ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するサブネットマスクを表示します。
- ③ ゲートウェイ ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④ 経路 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。
◎ local : インターフェイスがLAN側の場合です。
◎ wan : インターフェイスがWAN側の場合です。
詳細は、[ネットワーク インターフェイス リスト]項目に表示します。
- ⑤ 作成 どのように経路情報が作成されたかを表示します。
◎ static : スタティック(定義された)ルートにより作成
◎ rip : ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成
◎ misc : ブロードキャストに関するフレーム処理で作成
- ⑥ メトリック [スタティックルーティング設定]項目の[メトリック]欄で設定された値やダイナミックルーティングで作成された経路のコストを表示します。

2-5.「ルーティング設定」画面(つづき)

■スタティックルーティング設定



パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。

登録できるのは、最大32件までです。

スタティックルーティング設定

登録①の追加	②	③	④	⑤	⑥
経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	
local	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	追加
現在の登録					
経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	

- ① 経路 回路の経路を指定します。
 ◎ local : 登録する経路情報がLAN側の場合です。
 ◎ wan : 登録する経路情報がWAN側の場合です。
- ② 宛先 経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。
 経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。
 ※IPアドレスは、ゲートウェイのネットワーク部と同じにします。
- ③ サブネットマスク 対象となる宛先のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。
- ④ ゲートウェイ ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。
 ※入力値は、[経路]欄で入力したIPアドレスのネットワーク部と同じにします。
- ⑤ メトリック 宛先までのコストを表す数値を入力します。
 数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。
 0(空白)~15まで入力できます。
- ⑥ <追加> 設定した内容で[IP経路情報]項目に登録します。
 ※操作後は、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。登録されると、その内容は[IP経路情報]項目に表示されません。



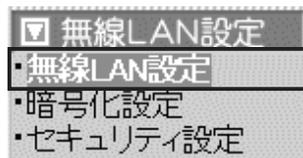
この章では、
「無線LAN設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

3-1.「無線LAN設定」画面	36
■ 無線LAN設定	36
3-2.「暗号化設定」画面	40
■ 暗号化設定	40
■ キー値	44
3-3.「セキュリティ設定」画面	45
■ MACアドレスセキュリティ設定	45

3 「無線LAN設定」メニュー

3-1. 「無線LAN設定」画面

■ 無線LAN設定

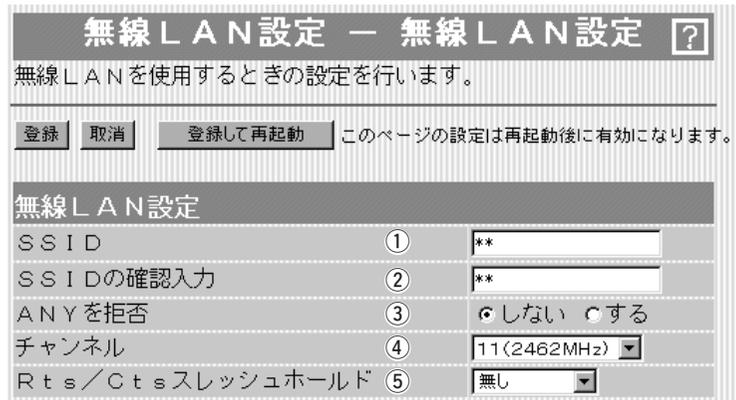
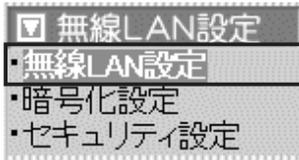


装着するアイコム社製無線LANカードに対する基本設定です。

- 〈登録〉ボタン ◎802.11a規格および802.11a/b規格のアイコム社製無線LANカードを装着時は、「無線LAN設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。
◎802.11b規格のアイコム社製無線LANカードを装着時は、「無線LAN設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。
- 〈取消〉ボタン 「無線LAN設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- 〈登録して再起動〉ボタン 802.11a規格および802.11a/b規格のアイコム社製無線LANカードを装着時表示されるボタンで、本製品を再起動して、「無線LAN設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

3-1.「無線LAN設定」画面

■ 無線LAN設定(つづき)

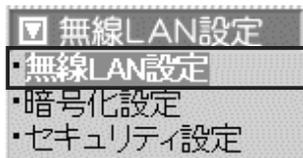


- ① SSID 無線ルータや無線アクセスポイントが無線伝送エリア内に数台存在しているような場合、個々の無線ネットワークグループを[SSID(無線ネットワーク名)]で識別したり、異なる無線ネットワーク名で通信するグループからの混信を防止します。
この[SSID]が異なると本製品と無線で通信できません。
セキュリティというよりは、むしろ無線ネットワークのグループ分けを設定するために使用します。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。 (出荷時の設定：LG)
また、入力した文字はすべて「*」で表示されます。
(表示例：**)
※[SSID]と[ESS ID]は、同じ意味で使用しています。
本製品以外の無線LAN機器では、[ESS ID]と表記されている場合があります。
- ② SSIDの確認入力 確認のため、SSIDを再入力します。 (表示例：**)
- ③ ANYを拒否 「ANY」モード(アクセスポイント自動検索接続機能)で動作している無線端末の検索や接続を許可するかしないかを設定します。
(出荷時の設定：しない)
出荷時の設定では、アイコム社製無線LANカードを装着するパソコンとの接続が容易になるように、これらの無線端末からの検索や接続を許可しています。
この設定を「する」にした場合、「ANY」モードで通信する無線端末が使用する「Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続」や「無線ネット表示に対応するアイコム社製無線LANカードに付属の設定ユーティリティ」に検索されません。
※「ANY」モードとは、無線LANカードの[SSID]を「ANY」または「any」と設定して通信する無線端末を意味します。
※ご使用のパソコンにSL-50(ドライバーのVer.1.34以降)やSL-5000をインストールしたときは、出荷時から「ANY」モードで動作しています。

3 「無線LAN設定」メニュー

3-1.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)



④チャンネル ……………

※本製品にSL-5000を装着している場合は、14チャンネルを使用できません。

無線通信に使用する無線通信チャンネルを設定します。選択できるチャンネルは、装着する無線LANカードによって異なります。

【出荷時の設定】

◎802.11b規格および802.11a/b規格のアイコム社製無線LANカードを装着時は、11(2462MHz)です。

◎802.11a規格のアイコム社製無線LANカードを装着時は、34(5170MHz)です。

※無線端末側は、本製品のチャンネルを自動的に検知して通信します。

※近くに2.4GHz(11Mbps)の無線アクセスポイント機能で通信する別の無線ネットワークグループが存在するときは、電波干渉を避けるため、本製品の「チャンネル」は、別の無線ネットワークグループと4チャンネル以上空けて設定してください。それ以下のときは、図に示すように帯域の1部が重複するため混信する可能性があります。

例えば、お互いの設定が、1-6-11チャンネルに設定すると混信しません。

また、14チャンネルについても11チャンネルと帯域が重複しないため混信しません。

※5.2GHz(54Mbps)で通信する場合は、お互いを異なるチャンネルに設定すれば、チャンネル間の電波干渉に配慮する必要はありません。



3-1.「無線LAN設定」画面

■ 無線LAN設定(つづき)

- ▼ 無線LAN設定
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- セキュリティ設定

無線LAN設定 — 無線LAN設定 ?			
無線LANを使用するときの設定を行います。			
登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。
無線LAN設定			
SSID	①	**	
SSIDの確認入力	②	**	
ANYを拒否	③	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
チャンネル	④	11(2462MHz)	
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑤	無し	

⑤ Rts/Ctsスレッシュ

ホールド

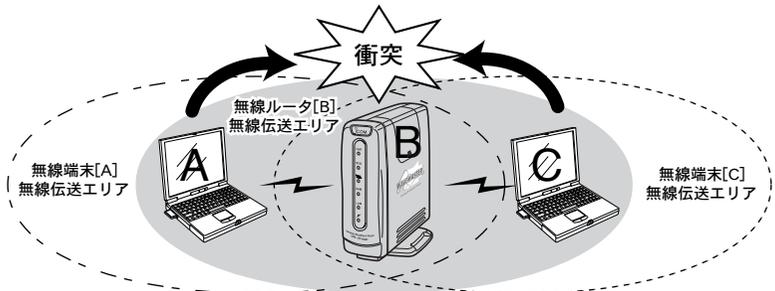
ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。

(出荷時の設定：無し)

Rts/Cts(Request to Send/Clear to Send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。

隠れ端末とは、下図のように、それぞれが本製品[B]と無線通信できても、互いが直接通信できない無線端末[A]-[C]同士([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。

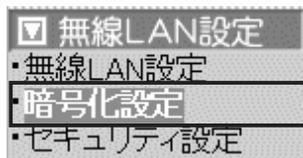
通信の衝突を防止するには、無線端末[A]から送信要求(Rts)信号を受信した本製品[B]が、無線伝送エリア内にある無線端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線端末[C]に本製品[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。これにより、Rts信号を送信していない無線端末[C]は、無線ルータ[B]から受信完了通知(ACK)を受信するまで本製品[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



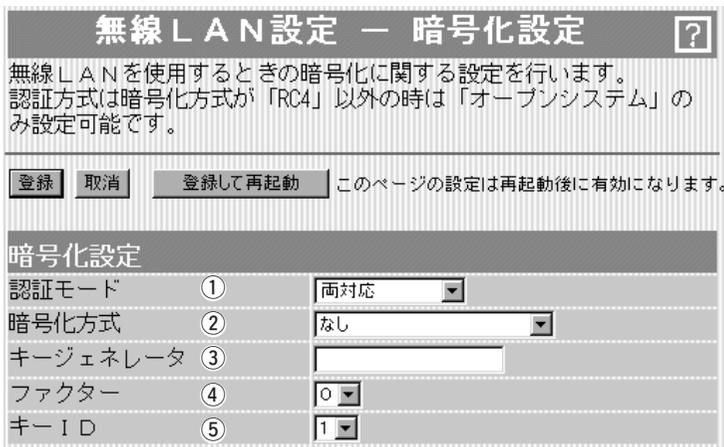
3 「無線LAN設定」メニュー

3-2. 「暗号化設定」画面

■ 暗号化設定



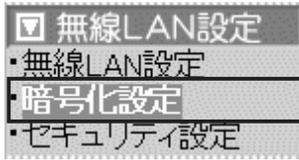
無線LANで通信するデータを保護するために、無線送信データを暗号化するための設定です。



- 〈登録〉ボタン ◎802.11a規格および802.11a/b規格のアイコム社製無線LANカードを装着時は、「暗号化設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。
◎802.11b規格のアイコム社製無線LANカードを装着時は、「暗号化設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。
- 〈取消〉ボタン 「暗号化設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- 〈登録して再起動〉ボタン 802.11a規格および802.11a/b規格のアイコム社製無線LANカードを装着時表示されるボタンで、本製品を再起動して、「暗号化設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

3-2.「暗号化設定」画面

■ 暗号化設定(つづき)



① 認証モード ……………

暗号化を使用する無線LANからのアクセスに対する認証方式を設定します。
(出荷時の設定：両対応)

※通信相手と認証モードが異なると通信できません。

- ◎両対応：無線LANのアクセスに対して、「オープンシステム」と「シェアードキー」を自動認識しますので、通信相手間で暗号化鍵(キー)が同じであれば通信可能です。
- ◎オープンシステム：無線LANのアクセスに対して認証を行いません。
- ◎シェアードキー：無線LANのアクセスに対して通信相手と同じ暗号化鍵(キー)かどうかを認証します。

② 暗号化方式……………

無線伝送データを暗号化する方式と暗号化ビット数を選択します。
(出荷時の設定：なし)

※「RC4」、「AES」、「OCB AES」は、それぞれ互換性はありません。

暗号化方式には、「RC4」、「AES」、「OCB AES」があります。通信を行う相手間で、ビット数も含め同じ方式を選択してください。

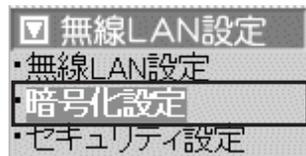
- ◎RC4：IEEE802.11b規格の無線LAN機器で一般によく搭載されているセキュリティーです。
暗号化方式は、RC4(Rivest's Cipher 4)アルゴリズムをベースに構成されています。
暗号化するデータのブロック長が8ビットで、暗号化鍵(キー)の長さを選択できます。
※選択できる暗号化鍵(キー)の長さは、本製品に装着する無線LANカードで異なります。
SL-5000やSL-50の場合は、64(40)/128(104)/152(128)ビットの中から選択できます。
SL-11、SL-12、SL-110、SL-120の場合は、64(40)/128(104)の中から選択できます。

☞次ページにつづく

3 「無線LAN設定」メニュー

3-2.「暗号化設定」画面

■ 暗号化設定(つづき)



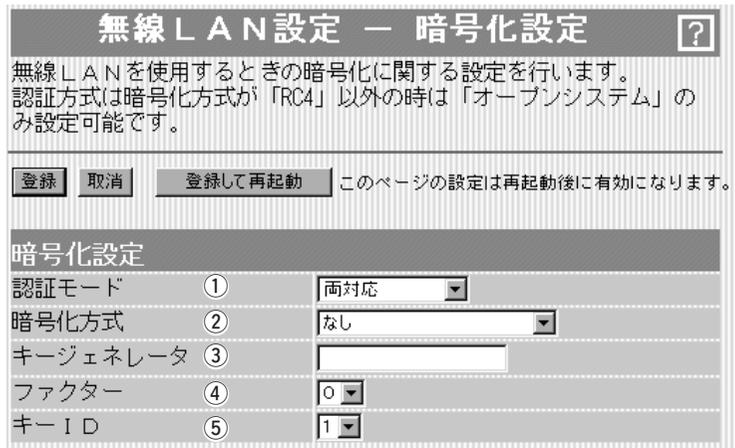
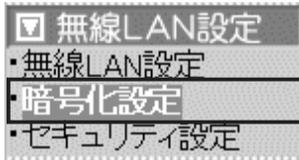
無線LAN設定 — 暗号化設定		?
無線LANを使用するときの暗号化に関する設定を行います。 認証方式は暗号化方式が「RC4」以外の時は「オープンシステム」のみ設定可能です。		
登録	取消	登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。
暗号化設定		
認証モード	①	両対応
暗号化方式	②	なし
キージェネレータ	③	
ファクター	④	0
キーID	⑤	1

- ② 暗号化方式(つづき) ……………
- ◎AES : WEP(RC4)より強力な次世代暗号化方式です。
SL-11、SL-12、SL-110、SL-120の無線LANカード装着時使用できます。
暗号化するデータのブロック長が128ビットで、暗号化鍵(キー)の長さを128(104)/256(232)ビットの中から選択できます。
 - ◎OCB AES : AESより強力で、標準化が推進されている次世代の暗号化方式です。
SL-5000やドライバーがVer.1.34以降のSL-50の無線LANカード装着時使用できます。
- ③ キージェネレータ ……………
- 暗号化および復号に使う鍵(キー)を生成するための文字列を設定します。
通信を行う相手間で同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字/記号)を31文字以内で設定します。
なお、入力した文字はすべて「*」で表示します。(表示例：**)
「暗号化方式」を選択して、〈登録〉をクリックすると、[キージェネレータ]欄に入力した文字列より生成された鍵(キー)を[キー値]項目のテキストボックスに表示します。
[キー値]項目の各キー番号のテキストボックスに生成される桁数および文字数は、選択する「暗号化方式」によって異なります。(取扱説明書[接続編] 3-9章 ■ 暗号化鍵(キー)値の入力についてを参照)
- ※「RC4」と「AES」で、先頭の24ビットは、一定時間ごとに内容を自動更新して設定されますので、「キー値」項目のテキストボックスには表示されません。
 - ※[キー値]項目の[入力モード]が「ASCII文字」に設定されている場合は、キージェネレータを使用できません。
 - ※[暗号化方式]欄で「なし」が選択されていると、[キー値]項目の各キー番号のテキストボックスに鍵(キー)が生成されません。

☞次ページにつづく

3-2.「暗号化設定」画面

■ 暗号化設定(つづき)

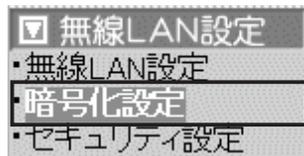


- ③ キージェネレータ(つづき) … ※通信相手間で文字列が異なる場合、暗号化されたデータを復号できません。
 ※[キー値]項目から直接設定するときは、[キージェネレータ]欄には何も表示されません。
- ④ **ファクター** ……………… 暗号化するレベルを設定します。(出荷時の設定：0)
 通信する相手間で異なるレベルを設定しても通信できます。
 「0」を選択すると、一番セキュリティが高くなります。
 各値の暗号化レベルは、次のようになります。
 「0」＝ 1パケットごとに内部暗号キーを変更する
 「1」＝ 10パケットごとに内部暗号キーを変更する
 「2」＝ 50パケットごとに内部暗号キーを変更する
 「3」＝ 100パケットごとに内部暗号キーを変更する
- ⑤ **キーID** ……………… 暗号化に使用する鍵(キー)番号を設定します。(出荷時の設定：1)
 鍵(キー)番号は、通信する相手間でそれぞれ任意に選択できます。
 [暗号化設定]項目の[暗号化方式]欄で、「RC4」または「OCB AES」が登録されているときは、「1」～「4」の中から選択できます。
 [暗号化設定]項目の[暗号化方式]欄で、「AES」が登録されているときは、「1」～「64」の中から選択できます。
 ※本製品に無線LANで接続するパソコンの[キーID]を設定するとき、Windows XP(Service Pack1を除く)標準のワイヤレスネットワーク接続を使用する場合は、[キーID]の選択範囲が「0」～「3」で、本製品とは異なりますので注意してください。
 本製品で「1」を選択した場合は、Windows XPの[キーインデックス(詳細)(X)]で「0」を設定するのと同じ意味になります。

3 「無線LAN設定」メニュー

3-2.「暗号化設定」画面(つづき)

■ キー値



暗号化鍵(キー)を直接入力するための設定です。

キー値	
入力モード ①	<input checked="" type="radio"/> 16進数 <input type="radio"/> ASCII文字
1	00-00-00-00-00
2	00-00-00-00-00
3	00-00-00-00-00 ②
4	00-00-00-00-00

① 入力モード 暗号化鍵(キー)の入力のしかたを選びます。

(出荷時の設定：16進数)

※入力モードを変更したときは、「暗号化設定」画面の〈登録〉ボタンをクリックしてから、暗号化鍵(キー)を入力してください。

※ASCII文字が設定されているときは、キージェネレータを使用できません。

② 鍵(キー)入力用ボックス キージェネレータを使用しないとき、暗号化および復号に使用する鍵(キー)を、[入力モード]欄で設定された方法で、直接入力します。
(出荷時の設定：00-00-00-00-00)

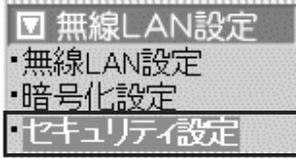
16進数表記で使用する以外のアルファベットを入力しても無効です。

[キー値]は、通信する相手間で、使用するキーIDに対する鍵(キー)の内容を同じに設定してください。

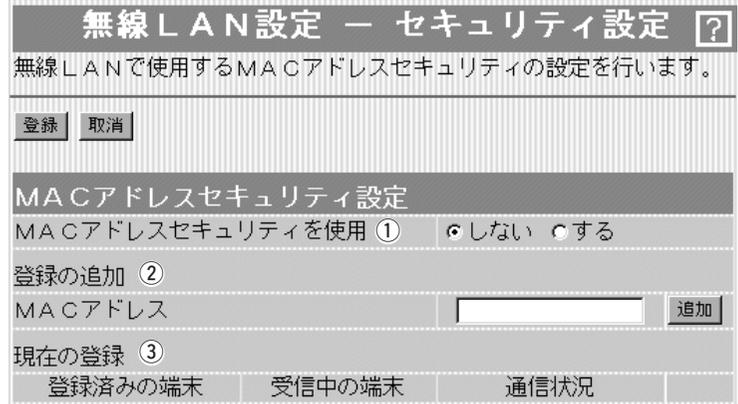
使用するキーIDに対する鍵(キー)の内容が違うときは通信できません。

3-3.「セキュリティ設定」画面

■ MACアドレスセキュリティ設定



通信を許可する無線端末のMACアドレスを登録することで、登録していない無線端末からの通信を制限するとき必要な設定です。



① MACアドレス

セキュリティを使用 ……………

本製品に登録されたMACアドレスを持つ無線LANのパソコンだけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)
「する」を選択すると、[現在の登録]欄に登録されていないMACアドレスを持つ無線LANからのアクセスを防止します。

② 登録の追加 ……………

この欄に対象となる無線LANカードのMACアドレスを入力して「追加」をクリックすると、[登録済みの端末]欄に登録されます。MACアドレスセキュリティが有効なとき、[登録済みの端末]欄に表示されたMACアドレスをもつ無線LANカードとだけ通信できます。

- ※最大256台分のMACアドレスを登録できます。
- ※入力は半角英数字で12桁(16進数)を入力します。
- ※入力後は「追加」をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。
- ※2つの入力例は、同じMACアドレスになります。
(入力例：00-90-c7-3F-00-32、0090c73F0032)

③ 現在の登録 ……………

本製品と無線で通信している端末の状況や登録済みの無線端末のMACアドレスを表示します。
登録されているMACアドレスは、「削除」で登録の削除が行えます。
なお、登録されていないMACアドレスを持つ無線端末も受信中の端末欄にMACアドレスが表示されますので、その欄に表示される「追加」ボタンをクリックすることで、その端末のMACアドレスを追加登録できます。



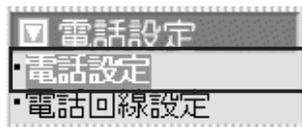
この章では、
「電話設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

4-1.「電話設定」画面	48
■ 基本設定	48
■ VoIPダイヤルタイミング	50
■ 使用回線の設定	51
4-2.「電話回線設定」画面	52
■ 回線側設定	52
■ 付加機能設定	53

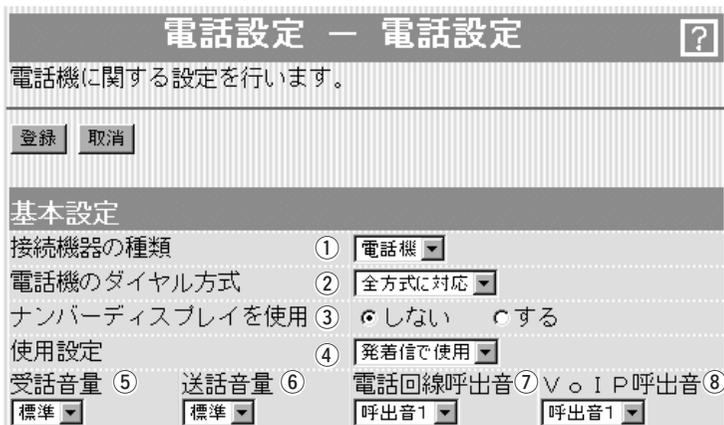
4 「電話設定」メニュー

4-1. 「電話設定」画面

■ 基本設定



[TEL]ポートに接続する電話機の基本設定です。



〈登録〉ボタン …………… 「電話設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン …………… 「電話設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

① 接続機器の種類 …………… 本製品の[TEL]ポートに接続する機器の種類を設定します。
(出荷時の設定：電話機)

- ◎電話機：アナログ電話機を接続するとき
- ◎FAX：G3ファクシミリを使用するとき
- ※IP電話によるファクシミリの操作は、保証いたしません。

② 電話機のダイヤル方式 …………… 本製品に接続する電話機のダイヤル信号の種類を設定します。
(出荷時の設定：全方式に対応)

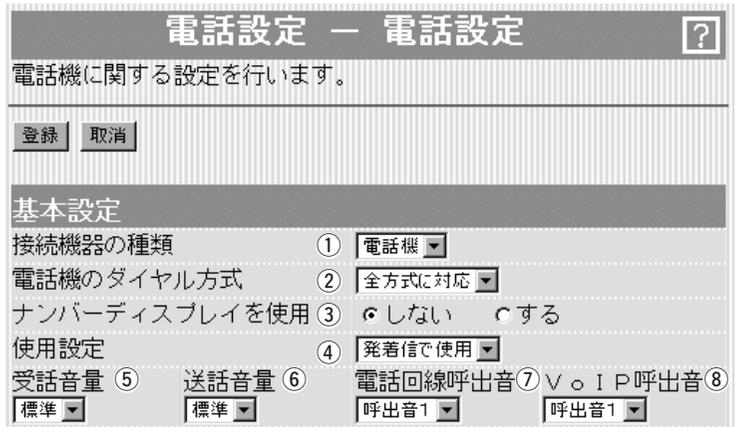
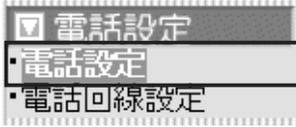
- ◎全方式に対応：電話機のダイヤル方式を自動認識します。
- ◎PB：電話機のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき
- ◎DP(20pps)：電話機のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が20ppsのとき
- ◎DP(10pps)：電話機のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が10ppsのとき

③ ナンバーディスプレイ
を使用 …………… NTTのナンバーディスプレイサービス(有料)を、本製品に接続する電話機で使用するかしないかを設定します。
(出荷時の設定：しない)

※本製品に接続する電話機でナンバーディスプレイサービスを使用する場合、ナンバーディスプレイ対応の電話機が必要です。

4-1.「電話設定」画面

■ 基本設定(つづき)



- ④ 使用設定 本製品の[TEL]ポート接続された機器について、一般加入電話およびIP電話の使用用途の制限を設定します。
(出荷時の設定：発着信で使用)
 - ◎発着信で使用：通常どおりに使用できます。
 - ◎着信専用：電話をかけたりFAXしたりできません。
 - ◎発信専用：電話をうけたりFAXを受信したりできません。
 - ◎使用しない：接続された機器は、本製品で動作しません。

※「発信専用」または「使用しない」でご使用の場合、本製品への着信は無視されます。
そのときの着信が一般加入電話の場合は、発信側の受話器からは通常の呼び出し音が聞こえるが誰も電話に出ないような感じを受けますのでご注意ください。

- ⑤ 受話音量 一般加入電話およびIP電話使用時、受話器から聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

- ⑥ 送話音量 一般加入電話およびIP電話使用時、相手の受話器から聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

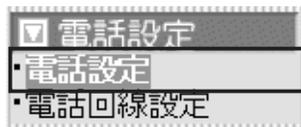
- ⑦ 電話回線呼出音 加入電話回線からかかってきた電話の着信音パターンを選択します。
(出荷時の設定：呼出音1)
本製品に接続する電話機によっては、呼び出し音が変わらないことがあります。

- ⑧ VoIP呼出音 IP電話からかかってきた電話の着信音パターンを選択します。
(出荷時の設定：呼出音1)
本製品に接続する電話機によっては、呼び出し音が変わらないことがあります。

4 「電話設定」メニュー

4-1.「電話設定」画面(つづき)

■ VoIPダイヤルタイミング



IP電話番号をダイヤルして発信を開始するまでの待ち時間についての設定です。

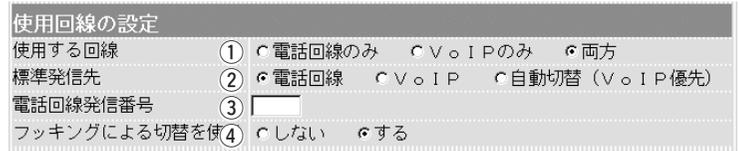


- ① **ダイヤル待ち時間** …………… 本製品の[TEL]ポート接続された電話機からIP電話をかけたとき、ダイヤル終了から発信を開始するまでの時間を設定します。
(出荷時の設定：5)
設定できる範囲は、「1～99(秒)」です。
- ② **フッキング判定時間** …………… 電話機のフックボタンを押して(受話器を置いて)から、実際に通話回線が切断(オンフック)されるまでの時間を設定します。
(出荷時の設定：1)
ここで設定した時間よりフックボタンを押し続ける時間が短い場合は、フッキングと認識します。
設定できる範囲は、「1～99(秒)」です。

■ 使用回線の設定



本製品で使用する回線(加入電話/VoIP)についての設定です。

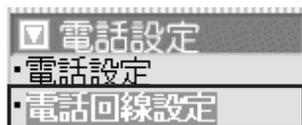


- ① 使用する回線 電話機で使用する回線を設定します。 (出荷時の設定：両方)
 ◎電話回線のみ：本製品の[TEL]ポート接続された機器を加入電話回線だけで使用するとき
 ◎VoIPのみ：本製品の[TEL]ポート接続された機器をIP電話だけで使用するとき
 ◎両方：本製品の[TEL]ポート接続された機器を加入電話回線とIP電話の両方で使用するとき
- ② 標準発信先 [使用する回線]欄で「両方」を設定したとき有効な設定で、受話器を取ったとき、発信する回線を設定します。
 (出荷時の設定：電話回線)
 ◎電話回線：電話をかけたとき、加入電話回線で発信します
 加入電話回線の本製品の[LINE]ポートに接続していない場合は、IP電話での発信に自動で切り替わります。
 ◎VoIP：電話をかけたとき、IP電話で発信します
 ◎自動切替(VoIP優先)：最初にIP電話で発信し、発信できなかったときは、加入電話回線で発信します。
- ③ 電話回線発信番号 [使用する回線]欄で「両方」を設定し、[標準発信先]欄で「電話回線」以外を設定したとき有効な設定で、発信先をIP電話から加入電話回線に切り替えるとき、電話機からダイヤルする番号を4桁以内の数字で入力します。
 受話器を取って設定した番号に続けて加入電話回線の電話番号をダイヤルすると、加入電話回線の相手と通話できます。
 ※IP電話で通話中は、機能しません。
- ④ フッキングによる切替を使用 [使用する回線]欄で「両方」を設定したとき有効な設定で、IP電話と加入電話回線の発信を電話機のフックボタンで切り替えできるようにするかしないかを設定します。
 「する」に設定されているときは、電話機のフックボタンを短く押す(フッキングする)と、何回でも切り替えできます。
 (出荷時の設定：する)

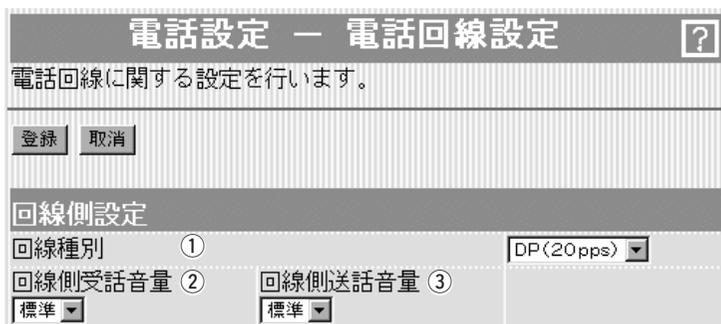
4 「電話設定」メニュー

4-2.「電話回線設定」画面

■ 回線側設定



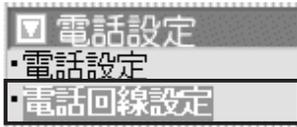
ご使用の加入電話回線についての設定です。



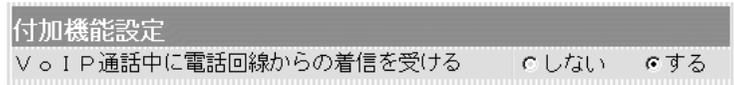
- 〈登録〉ボタン 「電話回線設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン 「電話回線設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ① 回線種別 本製品の[LINe]ポートに接続する回線の種類を設定します。
(出荷時の設定：DP(20pps))
※設定した回線種別が実際の回線と異なると、加入電話から発信できませんので、ご注意ください。
◎PB : 接続する加入電話回線のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき
◎DP(20pps) : 接続する加入電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が20ppsのとき
◎DP(10pps) : 接続する加入電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が10ppsのとき
- ② 回線側受話音量 一般加入電話使用時、受話器から聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)
- ③ 回線側送話音量 一般加入電話使用時、相手の受話器から聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

4-2.「電話回線設定」画面

■ 付加機能設定



IP電話で通話中、加入電話からの着信に対する設定です。



VoIP通話中に電話回線からの
着信を受ける ……………

「電話設定」画面の[基本設定]項目にある[使用設定]欄で、「発着信で使用」または「着信専用」を設定したとき有効な機能で、IP電話通話中、加入電話回線から着信を受けられるようにするかしないかを設定します。
(出荷時の設定：する)



この章では、

「VoIP設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

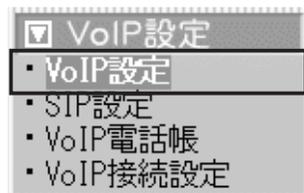
※SIPサーバに接続(050から始まる電話番号をダイヤル)してIP電話する場合は、最初に「VoIP接続設定」画面から[接続方法]項目の設定を変更してから、ほかの画面で詳細設定をしてください。

5-1.「VoIP設定」画面	56
■ 基本設定	56
■ VoIP音声設定	57
■ TOS設定	58
■ VoIP付加機能設定	59
■ 通話中着信の使いかた	60
■ 通話中発信の使いかた	62
■ 通話中転送の使いかた	64
■ IP線とセントレックス特番設定	66
5-2.「SIP設定」画面	67
■ SIP設定(Peer to Peer)	67
■ SIP設定(Peer to Peer以外)	68
■ VoIP電話番号設定	68
■ SIPサーバ(1)/SIPサーバ(2)/SIPサーバ(3)設定	69
5-3.「VoIP電話帳」画面	70
■ 電話帳の保存と書き込み	70
■ 登録の追加/現在の登録	71
5-4.「VoIP接続設定」画面	73
■ VoIP接続設定	73

5 「VoIP設定」メニュー

5-1.「VoIP設定」画面

■ 基本設定



相手のSIP URL(グローバルIPアドレス)を登録して、1対1でIP電話するときの着信条件を設定します。

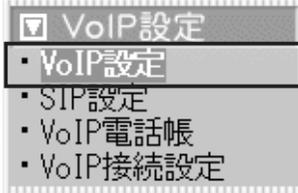
※この項は、「VoIP接続設定」画面(☞5-4章)の[接続方法の選択]欄で、「Peer to Peer」(SIPプロトコルによる1対1の通信)を設定したとき表示されます。



- 〈登録〉ボタン 「VoIP設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン 「VoIP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- 着信許可 IP電話で着信を受け付ける条件を設定します。
(出荷時の設定：全て着信する)
- ◎全て着信する：
かかってくるIP電話に対して、すべてを着信させるとき
 - ◎発信先が自局SIPユーザー名か、発信元が電話帳にあるSIP URLの場合のみ：
相手が発信するSIPユーザー名が、「SIP設定」画面(☞5-2章)の[SIP URL]欄に登録したSIPユーザー名と一致するか、「VoIP電話帳」画面(☞5-3章)に登録したSIP URLの相手を着信させるとき
 - ◎発信先が自局SIPユーザー名の場合のみ：
相手が発信するSIPユーザー名が、「SIP設定」画面の[SIP URL]欄に登録したSIPユーザー名と一致するときだけ着信を許可するとき
 - ◎着信しない：
IP電話での着信を拒否するとき

5-1.「VoIP設定」画面(つづき)

■ VoIP音声設定



IP電話の音声について設定します。

※この項目は、「VoIP設定設定」画面(5-4章)の[接続方法の選択]欄の設定に関係なく共通で表示されます。



- ① 音声符号化方式 …………… IP電話の音質についての設定です。
 (出荷時の設定：G.711/フレーム時間20ms)
 ◎G.711：音声を圧縮しないため、音質の劣化が少ないのが特徴で、ご契約の回線速度が遅いときは対応できません。
 ◎G.729B：音声を圧縮して伝送するため、ご契約の回線速度が遅いときでも対応できます。
 フレーム時間
 上記で選択した音声符号化方式での1フレームの長さを時間で設定します。
 設定した時間が短いほど遅延は少なくなりますが、ご契約の回線速度が遅いときは対応できません。
 「G.711」設定時、出荷時のフレーム時間は10msで、「5ms/10ms/20ms/30ms/60ms/90ms/120ms」から選択できません。
 「G.729B」設定時、出荷時のフレーム時間は20msで、「10ms/20ms/30ms/60ms/90ms/120ms」から選択できます。
- ② 音声受信バッファ …………… 音声を受信したとき、音声データを蓄える時間を設定します。
 (出荷時の設定：50ms)
 設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声途切れやすくなります。
 「50ms/100ms/150ms/200ms/250ms/300ms」から選択できます。
- ③ エコーキャンセラーを使用 …… IP電話で通信するとき起こるエコー(反響)を低減する機能を使用するかしないかの設定です。
 (出荷時の設定：する)

5 「VoIP設定」メニュー

5-1.「VoIP設定」画面(つづき)

■ TOS設定



SIPサーバを使用したIP電話で、VoIPパケットを優先的にIP網へ送出する機能を設定します。

IP-VPN回線サービスの音声優先制御機能を利用するときなど、社内ネットワーク等で、TOS(Type-of-Service)を使用する場合に關係します。

※この項目は、「VoIP接続設定」画面(☞5-4章)の[接続方法の選択]欄で「Peer to Peer」以外を設定したとき表示されます。

TOS設定				
TOS種別	①	<input type="radio"/> 使用しない	<input checked="" type="radio"/> TOS	<input type="radio"/> Diffserv
メディア (RTP)	②	優先度 2	サービスタイプ 0	
呼制御 (SIP)	③	優先度 1	サービスタイプ 0	

※上記の画面は、[TOS種別]欄で「TOS」を登録したときの表示です。

- ① TOS種別 TOS機能を使用するかしないかの設定です。
「VoIP設定」画面の〈登録〉をクリックすると、選んだTOS種別に該当する設定項目が表示されます。
(出荷時の設定：使用しない)
- 使用しない：TOS機能を使用しません。
○TOS : TOSのフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールドに出力します。
○Diffserv : Diffservのフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールドに出力します。
- ② メディア(RTP) TOSフィールド内に出力された音声パケットの優先制御の基準となる項目の設定です。
○[TOS種別]欄で「TOS」を登録したときは、[優先度]の値を「0～7」、[サービスタイプ]の値を「0～15」の範囲で設定します。
(出荷時の設定：優先度 2/サービスタイプ 0)
○[TOS種別]欄で「Diffserv」を登録したときは、[DSCP] (Diffserv Code Point)の値を「0～63」の範囲で設定します。
(出荷時の設定：DSCP 16)
- ③ 呼制御(SIP) TOSフィールド内に出力された呼制御(電話の発着制御)パケットの優先制御の基準となる項目の設定です。
○[TOS種別]欄で「TOS」を登録したときは、[優先度]の値を「0～7」、[サービスタイプ]の値を「0～15」の範囲で設定します。
(出荷時の設定：優先度 2/サービスタイプ 0)
○[TOS種別]欄で「Diffserv」を登録したときは、[DSCP] (Diffserv Code Point)の値を「0～63」の範囲で設定します。
(出荷時の設定：DSCP 8)

5-1.「VoIP設定」画面(つづき)

■ VoIP付加機能設定



※この項目の説明で、単に「通話中」と記載されている場合は、IP電話を意味します。

SIPサーバを使用したIP電話で通話中に、ほかのIP電話からの着信や、ほかのIP電話への発信、または転送機能について設定します。
 ※この項目は、「VoIP接続設定」画面(※5-4章)の[接続方法の選択]欄で「Peer to Peer」以外を設定したとき表示されます。

VoIP付加機能設定	
通話中着信	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通話中発信	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通話中転送	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

下記①～③の使いかたは、次ページで説明しています。

① 通話中着信

通話中に新たな電話がかかってきたときに、通話中の電話を切らずに、かかってきた電話に応答する機能です。

(出荷時の設定：しない)

※「電話設定」メニューの「電話回線設定」画面にある[VoIP通話中に電話回線から着信を受ける]欄を「する」に設定している場合は、本製品に着信した加入電話回線に切り替えると、IP電話は切断されます。

② 通話中発信

通話中の電話を保留して、別の相手にIP電話をかける機能です。

(出荷時の設定：しない)

③ 通話中転送

通話中の相手を通話中に保留した相手に転送する機能です。

(出荷時の設定：しない)

※通話中伝送するときは、[通話中発信]欄を「する」に設定しないと、使用できません。

5-1.「VoIP設定」画面(■通話中着信の使いかた)
 <電話機の操作> (つづき)

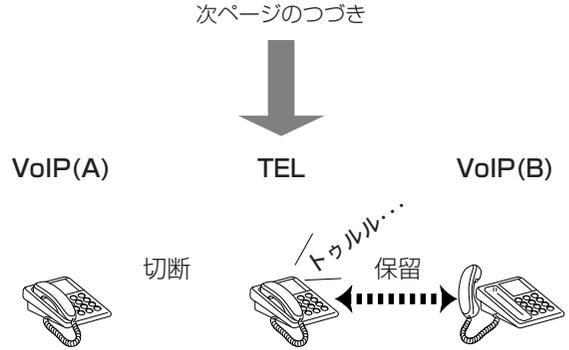
5.通話が終了したら、TELの受話器を戻し、VoIP(A)またはVoIP(B)との通話を切断します。

※保留中の相手がいる場合は、TELの呼出音が、「トゥルル…」と鳴ります。

TELの受話器を取ることで、保留中の外線と通話できます。

※保留中の相手がいるときに、通話中の相手が通話を切断した場合は、TELの受話器から「プー…」と話し中音が聞こえます。

このときもTELをフッキングすることで保留中の外線と通話できます。

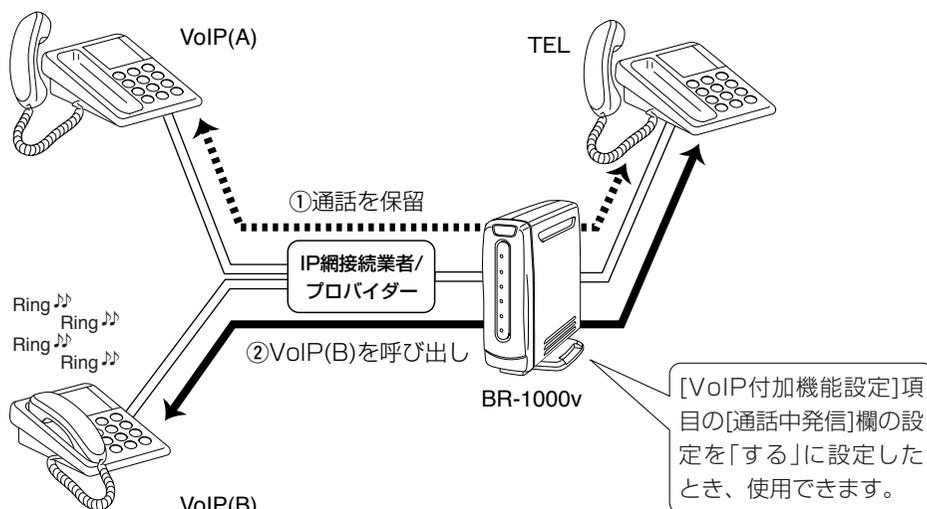


5 「VoIP設定」メニュー

5-1. 「VoIP設定」画面(つづき)

■ 通話中発信の使いかた

下記の図のように、TELと通話中のVoIP(A)を保留して、新たにVoIP(B)を呼び出して通話する方法を説明します。



〈電話機の操作〉

1. VoIP(A)との通話中に、TELのフックスイッチを1回だけ、短く押(フッキング)します。

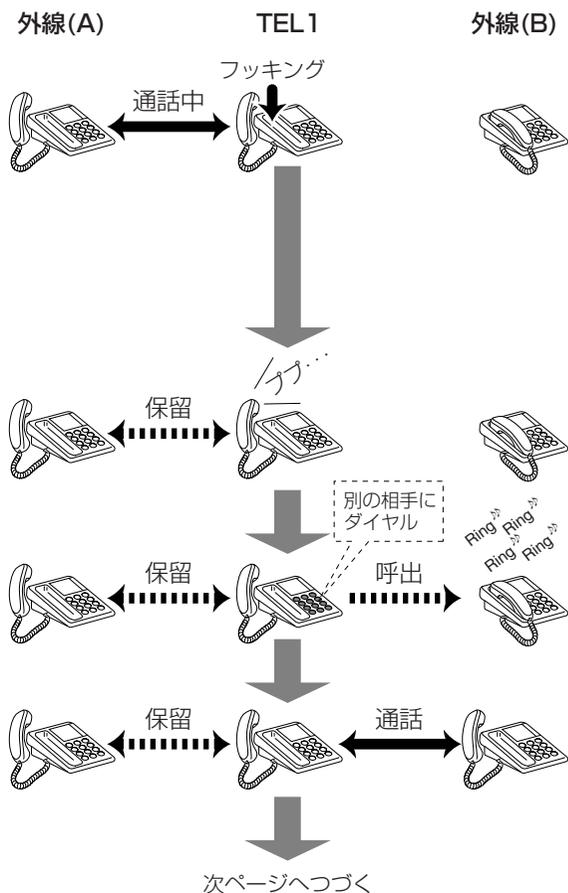
このとき、「電話設定」画面の[VoIPダイヤルタイミング]項目にある[フッキング判定時間]欄で設定した時間より長く押すと、TELとVoIP(A)との通話が切断されますので、ご注意ください。

2. TELの受話器から「プ・プ・・・」と第二発信音が聞こえ、VoIP(A)との通話を保留します。

3. 別の相手であるVoIP(B)の電話番号をダイヤルします。

4. VoIP(B)と通話します。

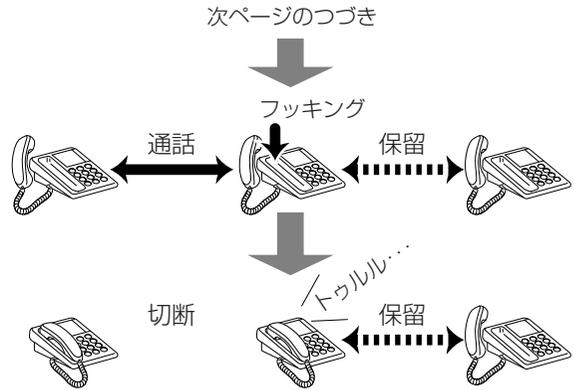
※つながらない場合、TELをもう一度フッキングして通話中発信を中止して、VoIP(A)との通話に戻ります。
また、そのまま受話器を置くと、TELの呼出音が鳴ります。



5-1.「VoIP設定」画面(■通話中発信の使いかた)
 <電話機の操作> (つづき)

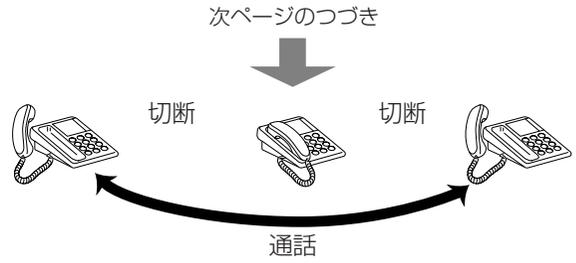
5. さらにTELをフッキングします。
 VoIP(A)との通話が再開されます。
 以後、電話機をフッキングすることにより、
 VoIP(A)/(B)が交互に切り替わります。

6. 通話が終了したら、TELの受話器を戻します。
 VoIP(A)またはVoIP(B)との通話が終了します。
 ※保留中の相手がいる場合は、TELの呼出音が「トゥルルル…」と鳴ります。
 受話器を取ることで、保留中のVoIPと通話が再開されます。
 ※保留中のVoIPがある場合に、通話中のVoIPが通話を切断した場合は、TELの受話器から「プー…」と話し中音が聞こえます。
 TELをフッキングすると、保留中のVoIPとの通話が再開されます。



5-1.「VoIP設定」画面(■通話中転送の使いかた)
〈電話機の操作〉(つづき)

- 5. TELの受話器を戻します。
VoIP(A)とVoIP(B)の通話を開始します。



5 「VoIP設定」メニュー

5-1. 「VoIP設定」画面(つづき)

■ IPセントレックス特番設定



※IPセントレックスとは、IP網経由でPBX(構内交換機)の役割ができる機能です。

社内ネットワーク内のSIPサーバ、またはIP網接続業者のSIPサーバが、IPセントレックスに対応している場合、各種機能特番の設定をします。

※この項目は、「VoIP接続設定」画面(※5-4章)の[接続方法の選択]欄で「Peer to Peer」以外を設定したとき表示されます。

IPセントレックス特番設定			
登録①	②	③	
特番	ACK文字列1	ACK文字列2	④
12345	abcdefghijklmnop	qrstuvwxyz	追加
現在の登録			
⑤	特番	ACK文字列1	ACK文字列2
編集	12345	abcdefghijklmnop	qrstuvwxyz
			削除

- ① **特番** 使用する特番号を5桁以内の数字で入力します。
- ② **ACK文字列1** [特番]欄で設定した番号の特番サービスにおけるACK応答文字列を、半角英数字(63文字以内)で入力します。
- ③ **ACK文字列2** 必要な場合は、ACK文字列1と合わせて半角英数字(63文字以内)で入力します。
- ④ **〈追加〉** [登録の追加]欄で入力した内容を登録して、[現在の登録]欄に表示します。
登録は、最大10個までです。
※設定を追加した特番号を電話機でダイヤルしたとき、IPセントレックスサーバに登録できたときは、本製品に接続した電話機の受話器から発信音が「ピッピッ」と2回鳴ります。
IPセントレックスサーバに登録できないときは、「ピッピッ」と5回鳴ります。
- ⑤ **〈編集〉** このボタンの右に表示された内容を編集するボタンです。
- ⑥ **〈削除〉** このボタンの左に表示された内容を削除するボタンです。

5-2.「SIP設定」画面

■ SIP設定(Peer to Peer)



相手のSIP URL(グローバルIPアドレス)を登録して、1対1でIP電話するとき、自分のSIPアドレスを設定します。

※この項は、「VoIP接続設定」画面(5-4章)の[接続方法の選択]欄で、「Peer to Peer」(SIPプロトコルによる1対1の通信)を設定したとき表示されます。



〈登録〉ボタン 「SIP設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

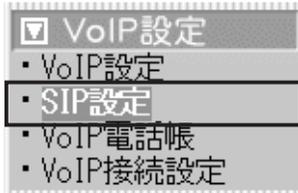
〈取消〉ボタン 「SIP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお 〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

SIP URL 自分のSIP URLを、「sip : [SIPユーザー名]@[本製品のWAN側IPアドレス]」、または「sip : [SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]」の書式で入力します。
 [SIPユーザー名]の部分には、任意の英数字(半角31文字以内)を入力します。
 「@」より以下の部分には、本製品のWAN側IPアドレス、またはダイナミックDNSサービスに登録して取得したホスト名(例 : telephone)と指定されたドメイン名(例 : iwatsu.co.jp)を半角英数字(63文字以内)で入力します。

5 「VoIP設定」メニュー

5-2.「SIP設定」画面

■ SIP設定(Peer to Peer以外)



SIPサーバを使用したIP電話の番号通知についての設定です。

※この項目は、「VoIP接続設定」画面(☞5-4章)の[接続方法の選択]欄で「ヒュージョン・コミュニケーションズ」を設定したとき表示されます。



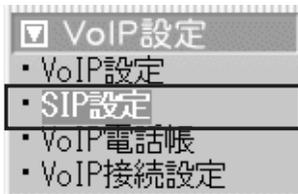
発番号通知

電話をかけたとき、[VoIP電話番号設定]項目で設定した[VoIP電話番号]を、相手側に通知するかしないかを設定します。

(出荷時の設定：しない)

- ◎しない : Fromヘッダーの発番号(display name)エリアを使用しないため、接続先に[VoIP電話番号]を通知しません。(※相手側の端末によっては通知される場合があります。)
- ◎する : Fromヘッダーの発番号(display name)エリアを使用して、接続先に[VoIP電話番号]を通知します。
- ◎Anonymous : Fromヘッダーの発番号(display name)エリアに“Anonymous”を設定します。
[VoIP電話番号]は、通知します。

■ VoIP電話番号設定



SIPサーバを使用したIP電話で使用する自分の電話番号についての設定です。

※この項目は、「VoIP接続設定」画面(☞5-4章)の[接続方法の選択]欄で「Peer to Peer」以外を設定したとき表示されます。



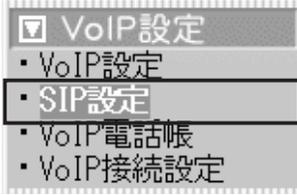
VoIP電話番号

[SIP設定]項目の[発番号通知]欄で「しない」以外を設定したとき、通話相手に通知される発信者番号を入力します。

この番号は、IP網接続業者またはプロバイダーから指定された「050」で始まる電話番号のことで、半角31文字までの数字(0~9)と記号(*、#、-)で入力できます。

5-2.「SIP設定」画面

■ SIPサーバ(1)/SIPサーバ(2)/SIPサーバ(3)設定



SIPサーバにアクセスするための設定です。

IP網接続業者またはプロバイダーから指定された項目だけを設定します。

また、SIPサーバ(2)とSIPサーバ(3)についても、指定された場合だけ設定してください。

※この項目は、「VoIP接続設定」画面(5-4章)の[接続方法の選択]欄で「Peer to Peer」以外を設定したとき表示されます。

SIPサーバ(1) 設定	
SIPサーバアドレス ①	<input type="text"/>
SIPサービスドメイン ②	<input type="text"/>
ユーザID ③	<input type="text"/>
パスワード ④	<input type="text"/>
登録時間 ⑤	<input type="text" value="3600"/>
接続状況 ⑥	<input type="text"/>

※この項目で設定できる内容は同じため、「SIPサーバ(1) 設定」項目の画面で説明しています。

- ① SIPサーバアドレス …………… プロバイダーから指定されたSIPサーバのIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ② SIPサービスドメイン …………… プロバイダーから指定されたSIPサーバのサービスドメイン名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
- ③ ユーザID …………… SIPサーバへの接続認証に使用するユーザIDです。
プロバイダーから指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
- ④ パスワード …………… SIPサーバへの接続認証に使用するユーザIDです。
プロバイダーから指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で31文字までです。
- ⑤ 登録時間 …………… プロバイダーから指定された場合に設定します。
入力できる範囲は、300～9999(秒)です。
- ⑥ 接続状況 …………… SIPサーバとの接続状態を、「接続中」、「接続成功」、「接続失敗」で表示します。
SIPサーバ未設定時は、何も表示されません。
また、「接続失敗」と表示される場合は、設定内容を確認してください。

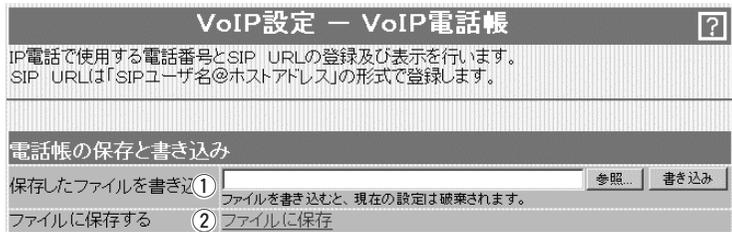
5 「VoIP設定」メニュー

5-3.「VoIP電話帳」画面

■ 電話帳の保存と書き込み



[現在の登録]項目に登録された電話帳のデータを保存したり、本製品の[現在の登録]項目に書き込んだりします。



① 保存したファイルを書き込む

書き込む ……………

パソコンに保存された「電話帳登録ファイル」の内容を本製品に書き込むとき操作します。

[ファイルに保存する]②欄の操作で保存した「電話帳登録ファイル」の保存先をテキストボックスに直接入力するか、〈参照...〉ボタンをクリックすると表示される画面から目的の「電話帳登録ファイル」を指定します。



テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉ボタンをクリックすると、[現在の登録]項目にその内容を書き込みます。

書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。

※「電話帳登録ファイル」を書き込んだあと、「設定保存」画面(8-1章)で保存された設定ファイルを書き込むと、後から書き込んだ設定ファイルの内容に上書きしますので、ご注意ください。

② ファイルに保存する ……………

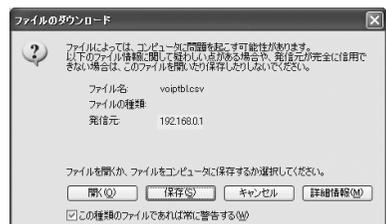
[現在の登録]項目の内容を「電話帳登録ファイル」として、パソコンに保存します。

画面上で[ファイルに保存]をクリックすると、表示される画面から〈保存〉をクリックしてください。

ファイル形式(拡張子)は、「.csv」で保存されます。

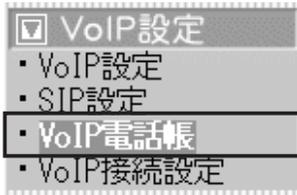
保存したファイルは、表計算やデータベースアプリケーションで編集できます。

また、保存した「電話帳登録ファイル」は、本製品を使用する複数の相手に書き込みできます。



5-3.「VoIP電話帳」画面(つづき)

■登録の追加/現在の登録



IP電話でかける相手の電話番号を登録します。

※「VoIP接続設定」画面(☞5-4章)の[接続方法の選択]欄で「フュージョン・コミュニケーションズ」以外を設定している場合は、登録した電話番号に対応するSIP URLも併せて登録します。

①	②	③	④	⑤	⑥
番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択	
1	BR-1000v	999	sip:br1000voipA@172.20.30.101	電話設定に合わせる	追加

現在の登録

⑦	番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択	⑧
編集	1	BR-1000v	999	sip:br1000voipA@172.20.30.101	電話設定に合わせる	削除

※上記画面の[SIP URL]欄は、「VoIP接続設定」画面(☞5-4章)の[接続方法の選択]欄で「フュージョン・コミュニケーションズ」以外を設定したとき表示されます。

- ① 番号 最大50件の相手先電話番号が登録できます。
1～50までの数字を半角で入力します。
- ② 名前 相手の名前を任意の英数字[半角31(全角15)文字以内]で入力します。
- ③ 電話番号 電話機からダイヤルする電話番号を任意の数字(半角31桁以内)を入力します。
※110、118、119の番号やその3桁ではじまる番号は、登録できません。
- ④ SIP URL 相手の[SIP URL]を半角英数字(127文字以内)で入力します。
[電話番号]欄に設定した電話番号を電話機からダイヤルをすると、[SIP URL]欄に入力したSIP URLに電話をかけます。
下記のどちらかの書式で入力します。
「sip : [SIPユーザー名@本製品のWAN側IPアドレス]」、または
「sip : [SIPユーザー名@ホスト名.ドメイン名]」
※「VoIP接続設定」画面(☞5-4章)の[接続方法の選択]欄で「Peer to Peer」または「その他」を設定したとき表示されます。
- ⑤ 発信先の選択 「VoIP電話帳」画面に登録された電話番号を電話機からダイヤルしたとき、その発信先を設定します。
(出荷時の設定 : 電話設定に合わせる)
◎電話設定に合わせる : 発信先を「電話設定」メニューの「電話設定」画面にある[標準発信先]欄の設定に合わせます。
◎VoIPのみ : 「電話設定」メニューの「電話設定」画面にある[標準発信先]欄で「自動切替(VoIP優先)」を設定している場合、インターネット回線へ発信します。

※「VoIP接続設定」画面(☞5-4章)の[接続方法の選択]欄で「Peer to Peer」を設定したときは、[発信先の選択]欄で「SIPサーバ1」、「SIPサーバ2」、「SIPサーバ3」を設定できません。

☞次ページへつづく

5 「VoIP設定」メニュー

5-3.「VoIP電話帳」画面

■登録の追加/現在の登録(つづき)



①	②	③	④	⑤	⑥
番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択	
1	BR-1000v	999	sip:br1000voipA@172.20.30.101	電話設定に合わせる	追加

現在の登録

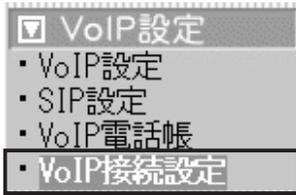
⑦	番号	名前	電話番号	SIP URL	発信先の選択	⑧
編集	1	BR-1000v	999	sip:br1000voipA@172.20.30.101	電話設定に合わせる	削除

※上記画面の[SIP URL]欄は、「VoIP接続設定」画面(※5-4章)の[接続方法の選択]欄で「フュージョン・コミュニケーションズ」以外を設定したとき表示されます。

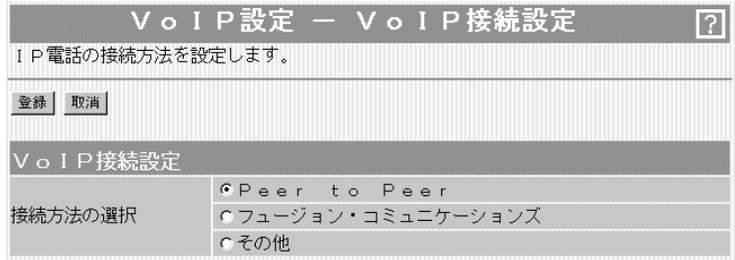
- ⑤ 発信先の選択(つづき) ……………
- ◎電話回線のみ : 本製品の[LINe]ポートに接続された加入電話回線へ発信します。
 - ◎電話回線プレフィックス : [電話番号]欄に設定した電話番号の先頭部分の番号が、電話機からダイヤルした先頭部分の番号と一致したとき、本製品の[LINe]ポートに接続された加入電話回線へ発信します。
 - ◎SIPサーバ1 : 「SIP設定」画面の[SIPサーバ (1)設定]項目に設定されたSIPサーバへ発信します。
 - ◎SIPサーバ2 : 「SIP設定」画面の[SIPサーバ (2)設定]項目に設定されたSIPサーバへ発信します。
 - ◎SIPサーバ3 : 「SIP設定」画面の[SIPサーバ (3)設定]項目に設定されたSIPサーバへ発信します。
- ⑥ <追加>…………… 入力した内容(①~⑤)を[現在の登録]項目の各欄に登録するボタンです。
- ⑦ <編集>…………… このボタンの右に表示された内容を編集するボタンです。
- ⑧ <削除>…………… このボタンの左に表示された内容を削除するボタンです。

5-4.「VoIP接続設定」画面

■ VoIP接続設定



IP電話の回線接続方法を設定します。



〈登録〉ボタン 「VoIP接続設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン 「VoIP接続設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお 〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

接続方法の選択 本製品が対応するIP電話への接続方法は、SIPサーバを登録する方法と、相手のSIP URL(グローバルIPアドレス)を登録して、1対1で通話する方法があります。

(出荷時の設定：Peer to Peer)

○Peer to Peer：SIPサーバを使用せず、相手のSIP URL(グローバルIPアドレス)を登録して、1対1で通話するとき設定します。

○フュージョン コミュニケーションズ：
 フュージョン コミュニケーションズのSIPサーバに接続するとき設定します。

○その他：フュージョン コミュニケーションズ以外のIP網接続業者、またはプロバイダーのSIPサーバに接続するとき設定します。



この章では、
「システム設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

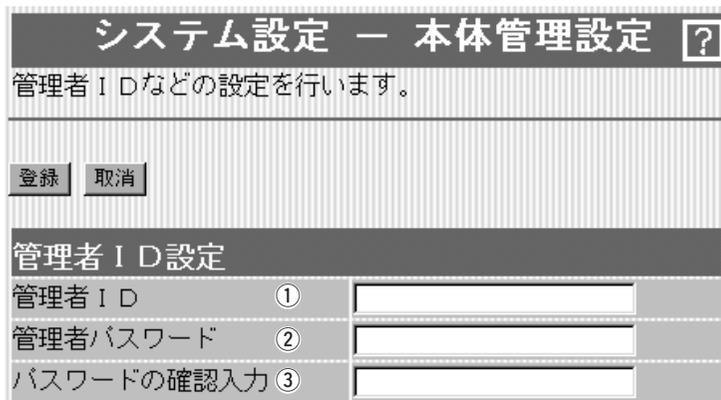
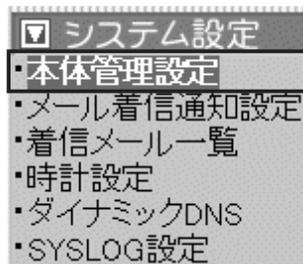
6-1.「本体管理設定」画面	76
■ 管理者ID設定	76
■ 本体MACアドレス	77
■ 「Firm Utility使用」モード	77
6-2.「メール着信通知設定」画面	78
■ サーバ設定	78
■ メール転送設定	80
■ メールフィルタ	81
6-3.「着信メール一覧」画面	82
■ 着信メール一覧	82
6-4.「時計設定」画面	83
■ 内部時計設定	83
■ 自動時計設定	84
6-5.「ダイナミックDNS」画面	85
■ 登録状況	85
■ ダイナミックDNS設定	86
6-6.「SYSLOG設定」画面	88
■ SYSLOG設定	88

6 「システム設定」メニュー

6-1. 「本体管理設定」画面

■ 管理者ID設定

本製品の設定画面へのアクセス制限を設定します。



〈登録〉ボタン …………… 「本体管理設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン …………… 「本体管理設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

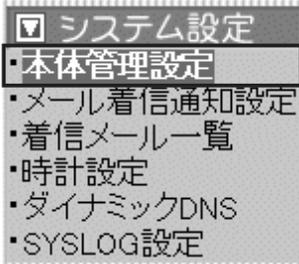
① 管理者ID …………… 本製品の設定画面へのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。(入力例: br1000voip)
[管理者ID]を設定すると、次のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに[管理者ID]を入力します。

② 管理者パスワード …………… [管理者ID]に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。
入力した文字は、すべて「*(アスタリスク)」で表示されます。
(表示例: ****)
[管理者パスワード]を設定すると、次のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに[管理者パスワード]を入力します。

③ パスワードの確認入力 …………… 確認のために、パスワードを再入力します。(表示例: ****)

6-1.「本体管理設定」画面(つづき)

■ 本体MAC アドレス



本製品のMACアドレスを表示します。

※このMACアドレスは、本製品の底面部に貼られているシリアルシールにも12桁で記載されています。



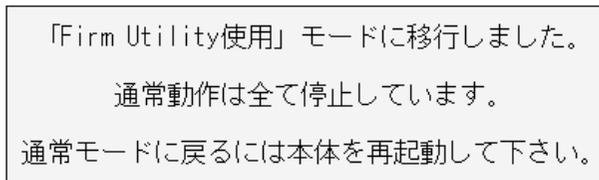
■ 「Firm Utility使用」モード

本製品に付属の「Firm Utility」を使用して、本製品を出荷時の状態に戻したり、ファームウェアをバージョンアップするとき使います。



「Firm Utility使用」モードにするときは、[移行する]欄のチェックボックスをクリックしてチェックマークを入れてから、〈実行〉ボタンをクリックします。

- 次の画面を表示して、「Firm Utility使用」モードに移行します。



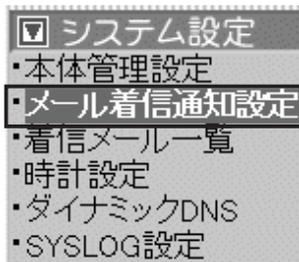
※「Firm Utility使用」モードに移行後も、本製品に設定された内容で動作します。

※「Firm Utility使用」モードに移行しないと、「Firm Utility」と本製品が通信できません。

6 「システム設定」メニュー

6-2.「メール着信通知設定」画面

■ サーバ設定



本製品が、接続先(プロバイダーなど)のメールサーバに自動接続して、着信メールの有無を確認するための設定をします。

※接続先が「PPPoE」の場合、接続設定が「手動接続」であっても、着信メールの確認は自動接続を行います。

※対応するプロトコルは、POP3だけです。

システム設定 — メール着信通知設定 ?

メールの着信に関する設定を行います。
このページの機能を使用すると指定時刻に接続されます。

登録 取消

サーバ設定

メール着信通知機能を使用	①	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
メールサーバ (POP)	②	<input type="text"/>
メールアカウント	③	<input type="text"/>
メールパスワード	④	<input type="text"/>
確認時刻 (時:分) / 間隔 (分)	⑤	00:00
接続先	⑥	接続先選択 ▼

〈登録〉ボタン 「メール着信通知設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン 「メール着信通知設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

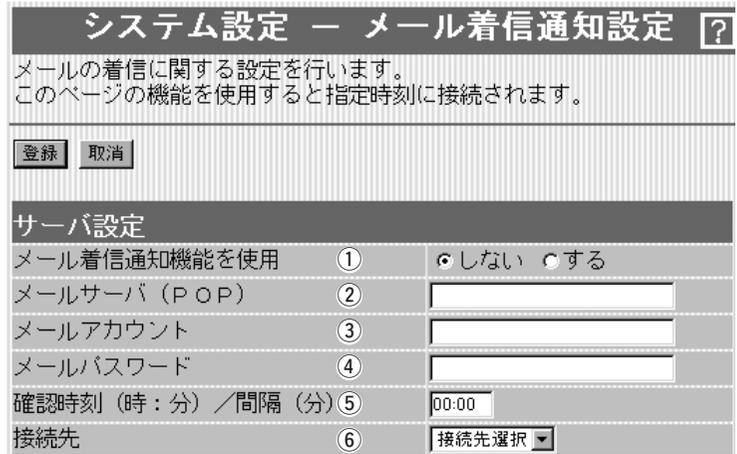
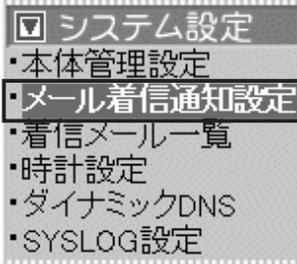
① メール着信通知機能を使用 ... メール着信通知機能を使用するかしないかを選択します。
(出荷時の設定: しない)
この機能を使用すると、着信メールがあるときは、本製品の [MSG] ランプが点滅すると同時に、その内容を「着信メール一覧」画面(☞6-3章)に表示します。

② メールサーバ(POP) メールサーバのサーバ名を入力します。
ドメイン名は、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
※ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。

③ メールアカウント メールサーバ上のユーザーIDまたはメールアカウントを入力します。
入力は、任意の英数字、半角127文字以内です。
※ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。

6-2.「メール着信通知設定」画面

■ サーバ設定(つづき)



- ④ メールパスワード …………… メールサーバにアクセスするときのパスワードまたはメールパスワードを任意の英数字、半角31文字以内で入力します。

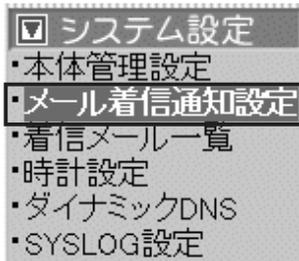
- ⑤ 確認時刻(時：分)/間隔(分) …… メールサーバに自動接続する時刻、または間隔を設定します。時刻を指定するときは24時間制、間隔を指定するときは分単位(5分以上)で入力します。 (出荷時の設定：00:00)
 ※時刻で指定したときは、「時計設定」画面(※6-4章)の[本体の時刻]欄に表示された時刻を基準に動作します。

- ⑥ 接続先 …………… この欄は、回線種別を「PPPoE」に設定しているとき表示され、メールサーバの接続先を選択できます。

6 「システム設定」メニュー

6-2.「メール着信通知設定」画面(つづき)

■ メール転送設定



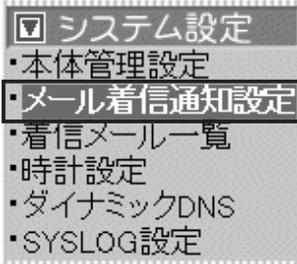
メール転送機能の設定と転送先のサーバについて設定します。
転送されるメール内容は、半角1023(全角511)文字までです。
※制限を超えた文字列については、表示されません。

メール転送設定	
メール転送機能を使用	① <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
転送先メールサーバ (SMTP)	② <input type="text"/>
転送先メールアドレス	③ <input type="text"/>
発信元メールアドレス	④ <input type="text"/>

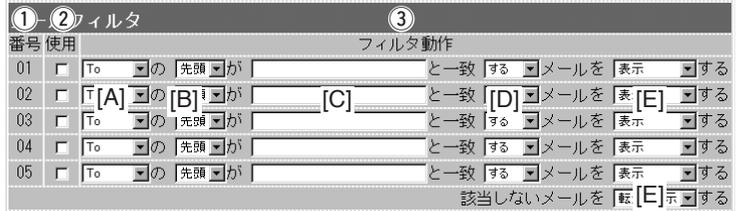
- ① **メール転送機能を使用** …………… メール転送機能を使用するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)
- ② **転送先メールサーバ (SMTP)** …………… 転送先メールサーバ(SMTPサーバ)の名前を、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
※接続先のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。
- ③ **転送先メールアドレス** …………… 転送先のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
- ④ **発信元メールアドレス** …………… メール発信者のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。

6-2.「メール着信通知設定」画面(つづき)

■ メールフィルタ



メール着信通知機能を使って「着信メール一覧」画面に表示、または転送するメールを限定したい場合に、その比較対象にする条件を設定します。

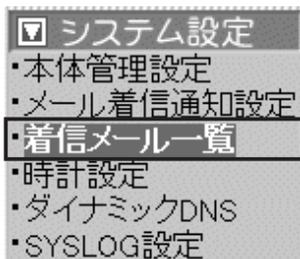


- ① 番号 最大6(5+1)件のフィルターを登録できます。
 フィルターを複数使う場合、着信メールとフィルターの設定内容をこの番号の小さな順に比較します。
 01～05番の条件に該当しない場合は、最下欄の[該当しないメールを]で指定する内容にしたがいます。
- ② 使用 指定のフィルター条件を有効にする場合は、該当する番号欄のチェックボックスをクリックします。
- ③ フィルタ動作 比較する対象になる条件を、この欄の[▼]印をクリックして表示するプルダウンメニューから選択します。
 下記の[A]～[D]のプルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。
[A]の[B]が[C]と一致[D]メールを[E]をする
 - [A]：比較対象条件
 - To : 宛先の文字列が対象
 - Cc : カーボンコピー(同報通信)の文字列が対象
 - From : 差出人の文字列が対象
 - Subject : 件名の文字列が対象
 - [B]：比較対象条件
 - 一部 : 文字列の一部が対象
 - 先頭 : 文字列の先頭が対象
 - 末尾 : 文字列の末尾が対象
 - [C]：比較対象条件
 - 入力できる文字列は、任意の英数字、半角127(全角63)文字以内です。
 - [D]：比較対象条件
 - する : 比較対象条件と一致するメールが対象
 - しない : 比較対象条件と一致しないメールが対象
 - [E]：比較対象条件／該当しないメールを
 - 転送+表示 : 転送して表示する
 - 表示 : 表示する
 - 無視 : 表示しない

6 「システム設定」メニュー

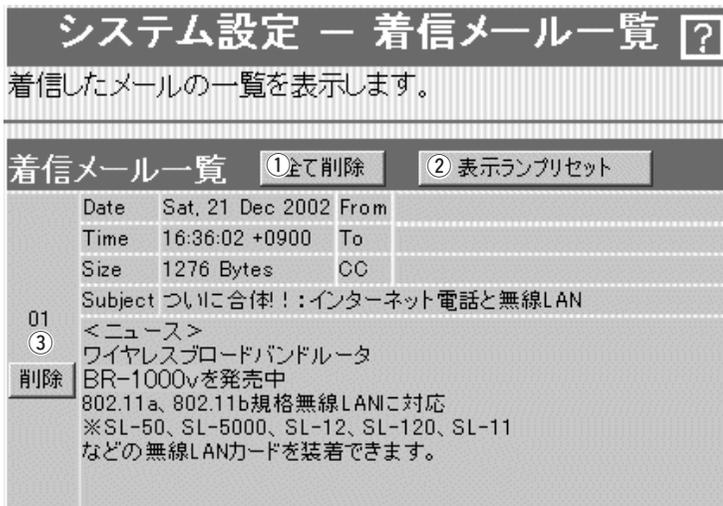
6-3.「着信メール一覧」画面

■ 着信メール一覧



着信したメールの一覧を表示したり、着信通知表示を停止するとき使用します。

下記の画面は、1件のメールを着信した状態です。



- ① <全て削除> ボタン …………… この画面に表示されているメールをすべて削除します。
※削除してもメールサーバのメールは削除されません。
- ② <表示ランプリセット> ボタン 新しい着信メールがあると、本製品の[MSG]ランプが点滅して、着信したことを通知します。
クリックすると、点滅中の[MSG]ランプを消灯状態に戻します。
- ③ <削除> ボタン …………… フレーム内のメールだけを消去します。
※削除してもメールサーバのメールは削除されません。

最大表示件数：16件

表示が17件以上になると古い順に消去されます。
メールサーバに20件のメールがあるとすると、新着順に16件表示して、残りの4件については、受信を行いません。

表示可能文字数

To/Cc/From/Subjectの各欄については、半角255(全角127)文字まで表示します。

着信メールの本文表示欄については、半角1023(全角511)文字まで表示します。

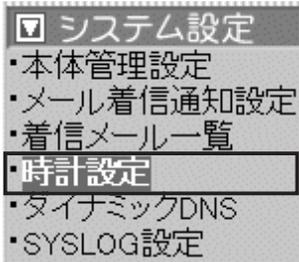
※制限を超えた文字列については、表示されません。

※メールフィルターが有効な場合は、表示可能な文字数だけが、[メールフィルタ]で設定する条件の比較対象文字列として処理します。

※メール転送機能が有効な場合、「表示可能文字数」で制限された範囲内の内容しか転送できません。

6-4.「時計設定」画面

■ 内部時計設定



本製品の内部時計を設定します。

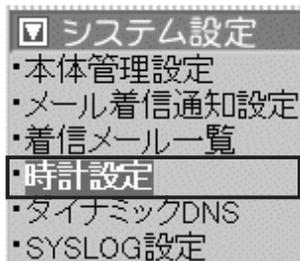


- 〈登録〉ボタン 「時計設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。
- 〈取消〉ボタン 「時計設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ① 本体の時刻 本製品に設定されている時刻を表示します。
- ② 設定する時刻 本製品の設定画面にアクセスしたとき、パソコンの時計設定を取得して表示します。
表示する時刻は、「時計設定」画面アクセス時に取得した時刻です。
※正確に設定したいときは、「時計設定」画面に再アクセスするかブラウザの〈更新〉ボタンをクリックしてから、〈登録〉をクリックしてください。

6 「システム設定」メニュー

6-4.「時計設定」画面(つづき)

■ 自動時計設定



本製品の内部時計を自動設定するとき、アクセスするタイムサーバの設定です。

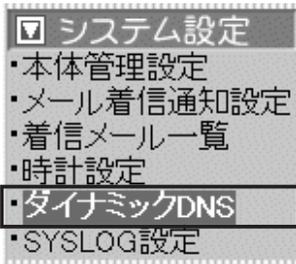
自動時計設定		
自動時計設定を使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
NTPサーバ1 IPアドレス	②	<input type="text" value="133.100.9.2"/>
NTPサーバ2 IPアドレス	③	<input type="text"/>
アクセス時間間隔	④	<input type="text" value="1"/> 日
前回アクセス日時	⑤	2003/01/15 08:27
次回アクセス日時	⑥	2003/01/02 00:00

- ① 自動時計設定を使用 …………… インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせを行い、内部時計を自動設定します。 (出荷時の設定：する)
- ② NTPサーバ1 IPアドレス …… 最初にアクセスするタイムサーバのIPアドレスを入力します。 (出荷時の設定：133.100.9.2)
- ③ NTPサーバ2 IPアドレス …… [NTPサーバ1 IPアドレス]の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
返答がないときは、再度[NTPサーバ1 IPアドレス]で設定したタイムサーバにアクセスします。
- ④ アクセス時間間隔 …………… タイムサーバにアクセスする間隔を日で設定します。
設定できる範囲は、「0～99」です。 (出荷時の設定：1)
「0」を設定したときは、タイムサーバにアクセスを行いません。
「PPPoE」による手動接続では、前回アクセスした日から設定した日数が経過している場合は、接続時にアクセスします。
常時接続では、設定した日数にしたがってアクセスします。
- ⑤ 前回アクセス日時 …………… タイムサーバにアクセスした日時を表示します。
- ⑥ 次回アクセス日時 …………… タイムサーバにアクセスする予定日時を、[前回アクセス日時]欄と[アクセス時間間隔]欄で設定された日数より算出して表示します。

6-5.「ダイナミックDNS」画面

■ 登録状況

ダイナミックDNSの自動更新機能を使用時、自動更新状況を表示します。



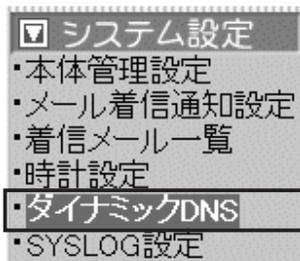
システム設定 — ダイナミックDNS	
ダイナミックDNSへの自動IPアドレス登録に関する設定を行います。	
登録状況	
起動時刻 ①	----/--/-- :--
登録状態 ②	未登録
ホストアドレス ③	-
IPアドレス ④	-

- ① 起動時刻 ご契約のプロバイダーや接続業者から本製品に自動配布されるIPアドレスの変更を、ご利用のダイナミックDNSサーバに自動アップデート(更新)されたときの時刻を表示します。
- ② 登録状態 自動アップデートが正常に行われたときは、「IPアドレスを更新しました」と表示されます。
 ※「回線に接続していません」/「ダイナミックDNSサーバにアクセスできませんでした」/「ダイナミックDNSサーバとの通信を確立できませんでした」/「ダイナミックDNSサーバにログインできませんでした」/「ダイナミックDNSサーバからエラーが返されました」/「ダイナミックDNSサーバが選択されていません」などが表示されたときは、ご利用になるダイナミックDNSサーバからの情報が、[ダイナミックDNS設定]項目の各欄に正しく設定されているかを確認してください。
- ③ ホストアドレス ダイナミックDNSサーバに登録されているホスト名([ダイナミックDNS設定]項目の[ホスト名]欄と[ドメイン]欄に入力した内容)を表示します。
 ※登録したホスト名が「iwatsuphone」で、登録したドメインが「iwatsu.co.jp」の場合は、「iwatsuphone.iwatsu.co.jp」と表示されます。
- ④ IPアドレス 現在、ダイナミックDNSサーバに登録されているグローバルIPアドレスを表示します。

6 「システム設定」メニュー

6-5.「ダイナミックDNS」画面(つづき)

■ダイナミックDNS設定



ダイナミックDNSサービスから取得したドメインと本製品のWAN側IPアドレスの関連付けを自動更新するための設定です。

Dynamic DNS Settings page with numbered callouts:

- 1: Dynamic DNS automatic update toggle (radio buttons for 'しない' and 'する')
- 2: Update interval (input field with '10' and '日')
- 3: Dynamic DNS server (dropdown menu with '設定なし')
- 4: Host name (input field)
- 5: Domain (input field)
- 6: User ID (input field)
- 7: Password (input field)
- 8: Connection status (radio buttons for 'オンライン' and 'オフライン')

Additional text on the right side of the form: 登録したURLが「test.sample.net」の場合「test」がホスト名、「sample.net」がドメインとなります。

〈登録〉ボタン 「ダイナミックDNS」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン 「ダイナミックDNS」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して今すぐ更新〉ボタン ... 本製品のWAN側IPアドレスを、[ダイナミックDNSサーバ]欄で選択したダイナミックDNSサーバに送信します。

①ダイナミックDNSの自動更新を使用

本製品のWAN側(ご契約のプロバイダーや接続業者から本製品に自動配布される)IPアドレスが変更されたらすぐに、ダイナミックDNSサーバへの登録を自動で更新するかしないかを選択します。

(出荷時の設定：しない)

※自動更新に失敗した場合は、その後、1時間ごとに自動更新を行います。

※「しない」を設定したときは、[定期更新間隔]欄も無効になります。

②定期更新間隔

ダイナミックDNSサーバへの登録を定期的に行う間隔を設定します。

(出荷時の設定：10)

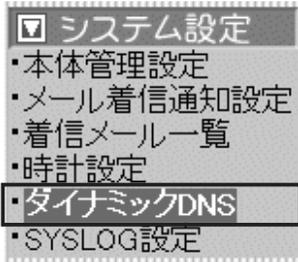
設定できる範囲は、「0～99」です。

※ダイナミックDNSの自動更新を使用している場合に、「0」を選択したときは、ダイナミックDNSの自動更新機能だけが動作します。

※ご利用になるダイナミックDNSサーバによっては、一定期間更新がないと、取得したドメインが無効になるため、定期的に更新することで防止できます。

6-5.「ダイナミックDNS」画面

■ ダイナミックDNS設定(つづき)



登録		取消		登録して今すぐ更新	
ダイナミックDNS設定					
ダイナミックDNSの自動更新を促す	①	<input type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する		
定期更新間隔	②	10	日		
ダイナミックDNSサーバ	③	設定なし			
ホスト名	④	<input type="text"/>	登録したURLが「test.sample.net」の場合「test」がホスト名、「sample.net」がドメインとなります。		
ドメイン	⑤	<input type="text"/>			
ユーザID	⑥	<input type="text"/>			
パスワード	⑦	<input type="text"/>			
接続状態	⑧	<input checked="" type="radio"/> オンライン	<input type="radio"/> オフライン		

- ③ **ダイナミックDNSサーバ**…… ご利用になるダイナミックDNSサーバを選択します。
(出荷時の設定：設定なし)
ご利用いただけるのは、下記のサーバです。

<input type="radio"/> ieServer	<input type="radio"/> Dynamic Do!.jp
<input type="radio"/> Zenno.Com	<input type="radio"/> Earth Dynamic System
<input type="radio"/> miniDNS	<input type="radio"/> DynDNS.org(英語)

- ④ **ホスト名** …………… ご利用になるダイナミックDNSサイトから取得したホスト名を半角31文字以内で入力します。

- ⑤ **ドメイン** …………… ご利用になるダイナミックDNSサイトから取得したドメインを半角31文字以内で入力します。

- ⑥ **ユーザID** …………… ご利用になるダイナミックDNSサーバへ接続するためのユーザIDを半角31文字以内で入力します。

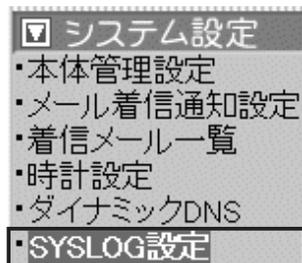
- ⑦ **パスワード** …………… ご利用になるダイナミックDNSサーバへ接続するためのパスワードを半角31文字以内で入力します。
入力した文字はすべて「*」で表示されます。
(入力例：iwatsu / 表示例：****)

- ⑧ **接続状態** …………… メンテナンスなどで、本製品を一時的に使用しない場合など、あらかじめ、ご利用になるダイナミックDNSサーバへ「オフライン」であることを通知するときに使用します。
(出荷時の設定：オンライン)

6 「システム設定」メニュー

6-6.「SYSLOG設定」画面

■ SYSLOG設定



指定したホストアドレスにログ情報などを出力する設定を行います。

システム設定 — SYSLOG設定 [?]	
指定したホストアドレスにログ情報などを出力する設定を行います。SYSLOG機能を利用してファイルとして一括管理ができます。	
登録 取消	
SYSLOG設定	
DEBUGを使用 ①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
INFOを使用 ②	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
NOTICEを使用 ③	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
ホストアドレス ④	<input type="text"/>
ファシリティ ⑤	<input type="text" value="1"/>

〈登録〉ボタン 「SYSLOG設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン 「SYSLOG設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

① DEBUGを使用 各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)

② INFOを使用 INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)

③ NOTICEを使用 NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：する)

④ ホストアドレス SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
ホストはSYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。

⑤ ファシリティ SYSLOGのファシリティを入力します。 (出荷時の設定：1)
設定できる範囲は、「0～23」です。
通常「1」を使用します。

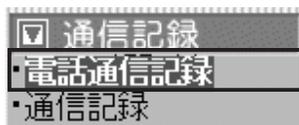
この章では、
「通信記録」メニューで表示される設定画面について説明します。

7-1.「電話通信記録」画面	90
■ 通信記録	90
7-2.「通信記録」画面	90
■ 通信記録	90

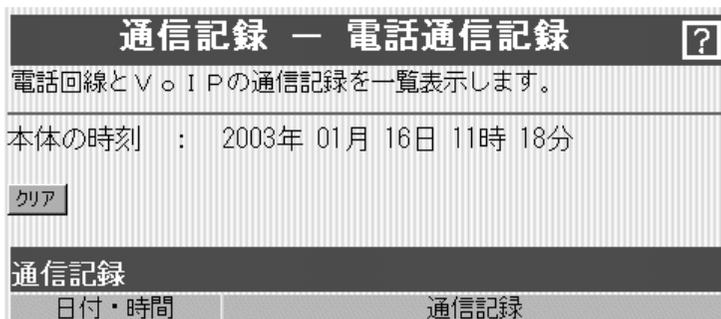
7 「通信記録」メニュー

7-1.「電話通信記録」画面

■ 通信記録



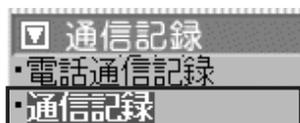
加入電話およびIP電話の発信と着信履歴を表示します。



通信記録の履歴は、〈クリア〉をクリックすると消去できます。

7-2.「通信記録」画面

■ 通信記録



WAN側回線の通信記録を表示します。



通信記録の履歴は、〈クリア〉をクリックすると消去できます。

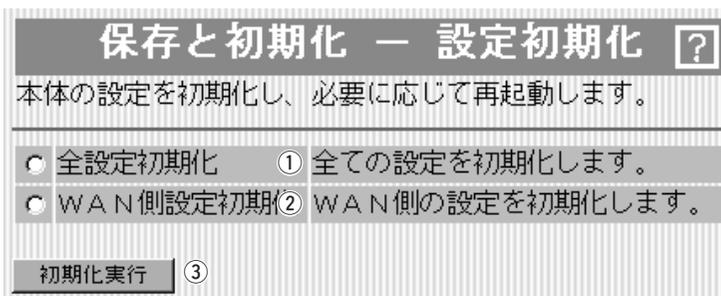
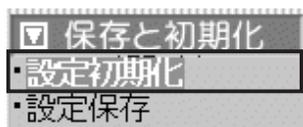
この章では、
「保存と初期化」メニューで表示される設定画面について説明します。

8-1.「設定初期化」画面	92
8-2.「設定保存」画面	93
■ 設定保存と書き込み	93
■ 現在の設定の確認	94

8 「保存と初期化」メニュー

8-1. 「設定初期化」画面

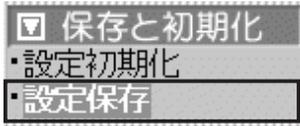
選択した初期化条件で本製品の設定内容を初期化します。



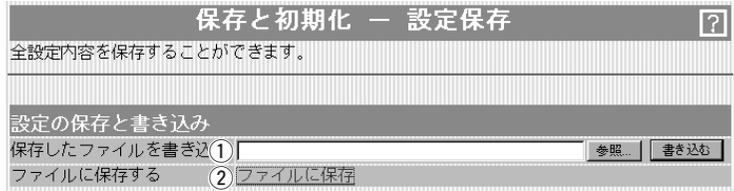
- ① 全設定初期化 …………… 本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。
- ② WAN側設定初期化 …………… 以下の3つの画面だけを出荷時の状態に戻します。
「WAN側設定」、「WAN側詳細設定」、「アドレス変換設定」
- ③ 〈初期化実行〉ボタン …………… 選択した[初期化条件]にしたがって、初期化を実行します。

8-2. 「設定保存」画面

■ 設定保存と書き込み



本製品の設定内容を保存したり、保存した設定ファイルの本製品に書き込んだりします。

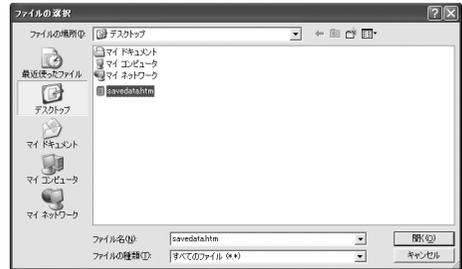


① 保存したファイルを書き込む

書き込む ……………

[ファイルに保存する](②)欄の操作で保存した設定ファイル内容を本製品に書き込むとき、操作します。

設定ファイルの保存先をテキストボックスに直接入力するか、〈参照…〉ボタンをクリックすると表示される右の画面から目的の設定ファイルを指定します。



テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉ボタンをクリックすると、本製品にその設定内容を書き込みます。

書き込む前の設定内容は、消去されますのでご注意ください。

※WWWブラウザの「ファイル(E)」メニューから、[名前を付けて保存(A)…]をクリックして保存した「設定保存」画面のファイルとは互換性がありませんので保存したファイルとして読み込むことはできません。

② ファイルに保存する ……………

本製品すべての設定内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。

画面上で[ファイルに保存]をクリックすると、表示される画面から〈保存〉をクリックすると、設定ファイル保存できます。

設定ファイルのファイル形式(拡張子)は、「.htm(またはhtml)」です。

保存したファイルは、[保存したファイルを書き込む](①)欄の操作で、本製品自身や本製品を使用する別の相手に書き込みできます。

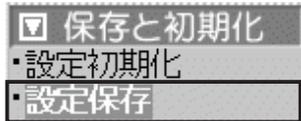
※「VoIP電話帳」画面(☎5-3章)に登録された内容についても保存されます。



8 「保存と初期化」メニュー

8-2. 「設定保存」画面(つづき)

■ 現在の設定の確認



本製品の変更された設定内容を確認したり、設定した内容を設定ファイルとして保存します。



- ① <本体に登録> ボタン …………… 「内容表示」部に表示された内容を、本製品に書き込みます。
※本製品のLAN側IPアドレスの設定が、「内容表示」部に表示されたLAN側IPアドレスと異なるときは、設定を本製品に登録できません。
- ② <取消> ボタン …………… 「内容表示」部に表示された内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。
- ③ 「内容表示」部 …………… 変更された設定内容を表示します。
この画面内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。
保存するときは、WWWブラウザの「ファイル(F)」メニューから、[名前を付けて保存(A)...]をクリックすると、保存できます。
※[設定の保存と書き込み]項目の「ファイルに保存」をクリックして保存した設定ファイルとは互換性がないので、読み込むことはできません。
※各画面で設定されたパスワードやキージェネレーター(無線LAN通信用暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されます。
そのため、保存されたファイルよりそれらが外部へ漏れることはありません。

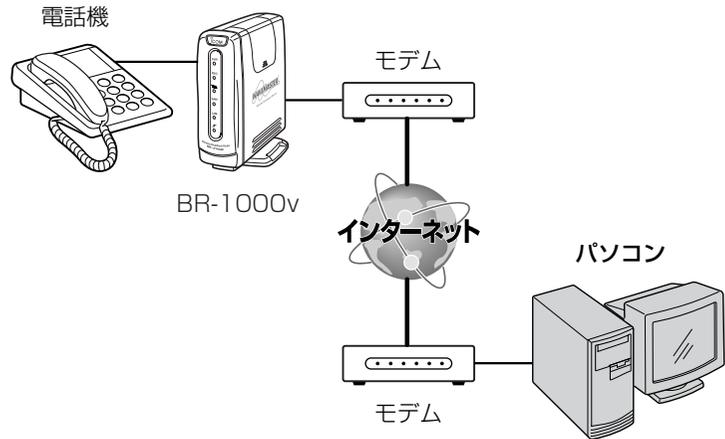
この章では、
「Windows Messenger」の相手とIP電話するときの説明と、Telnetによる接続について説明します。

9-1.相手のパソコンとIP電話するには	96
① 対応ソフトウェアの確認と準備	96
② 「Windows Messenger」の設定	97
③ 「Windows Messenger」から本製品に電話するには	100
④ 本製品から「Windows Messenger」に電話するには	102
9-2.Telnetによる接続	103
■ Windows XP/Windows 2000の場合	103
■ Windows 98/98 SE/Meの場合	103
9-3.オンラインヘルプ	104

9-1.相手のパソコンとIP電話するには

本製品に接続された電話機と相手のパソコンとのあいだでIP電話をするには、相手のパソコンに「Windows Messenger」または「MSN Messenger」が必要です。

※ブリッジタイプモデムに接続されたパソコンにはグローバルIPアドレスが割り当てられていることを確認してください。



① 対応ソフトウェアの確認と準備

1.対応OSと「Windows Messenger」または「MSN Messenger」の対応バージョンを下記に示します。

対応OS タイプ	Messenger タイプ	バージョン	DirectX バージョン
Windows XP	Windows Messenger	4.6～4.7	8.1
Windows 2000	MSN Messenger	4.6～4.7(5.0を除く)	8.1
Windows 98/98SE/Me	MSN Messenger	4.6～4.7(5.0を除く)	8.1

※バージョンの確認は、「Messenger」を起動して、「ヘルプ(H)」メニューから「Windows Messenger(またはMSN Messenger)のバージョン情報(A)」をクリックします。



2.マイクとスピーカーを「Windows Messenger」または「MSN Messenger」で使用できる状態に設定してください。

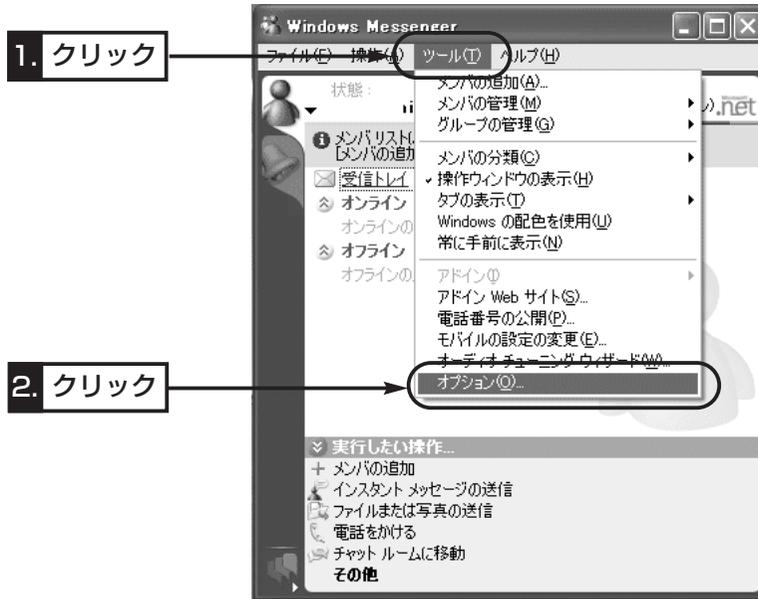
9-1.相手のパソコンとIP電話するには(つづき)

② 「Windows Messenger」の設定

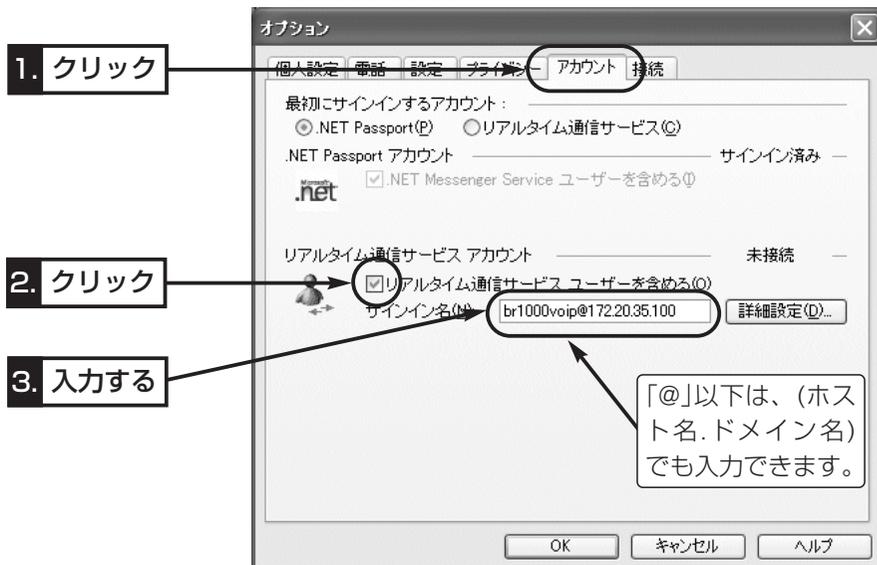
ここでは、Windows XPに標準の「Windows Messenger」(Ver.4.7)を例に、その準備(接続先の設定)について説明します。

〈設定の手順〉

- ① Windows Messengerの「ツール(T)」メニューから「オプション(O)」をクリックします。



- ② [アカウント]タブをクリックして、[リアルタイム通信サービスユーザーを含める]のチェックボックスにチェックを入れます。
- ③ 自分のSIP URLを[サインイン名(N)]のテキストボックスに入力(例：br1000voip@172.20.35.100)します。



9 ご参考に

9-1.相手のパソコンとIP電話するには

② Windows Messengerの設定(つづき)

④ 〈詳細設定(D)〉をクリックします。

- 「リアルタイム通信サービスの接続の設定」画面を表示します。



⑤ [手動設定(C)]のラジオボタンをクリックします。

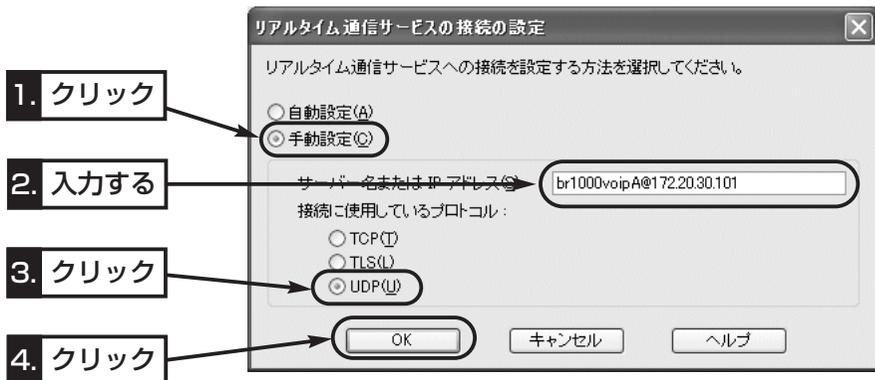
⑥ 通信相手のSIP URLを[サーバー名またはIPアドレス(S)]のテキストボックスに入力します。

(例：br100voipA@172.20.35.100)

※「@」以下は、(ホスト名.ドメイン名)でも入力できます。

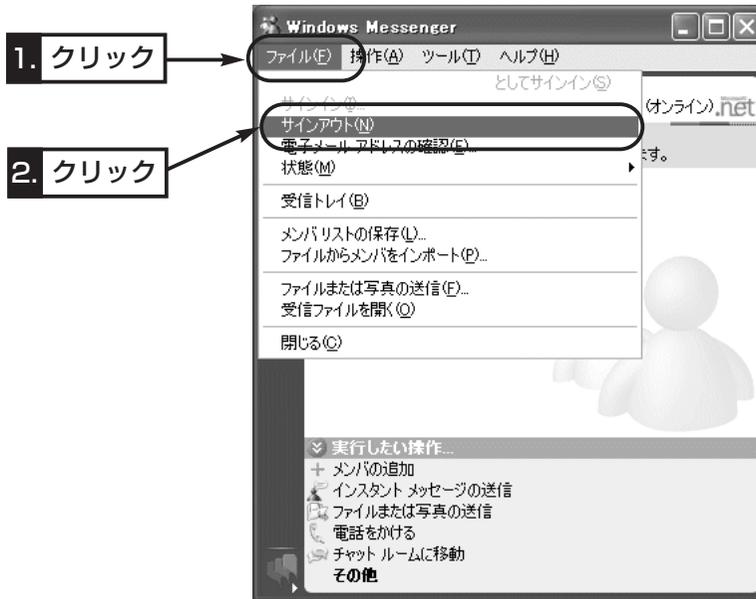
⑦ [UDP(U)]のラジオボタンをクリックします。

⑧ 〈OK〉をクリックします。

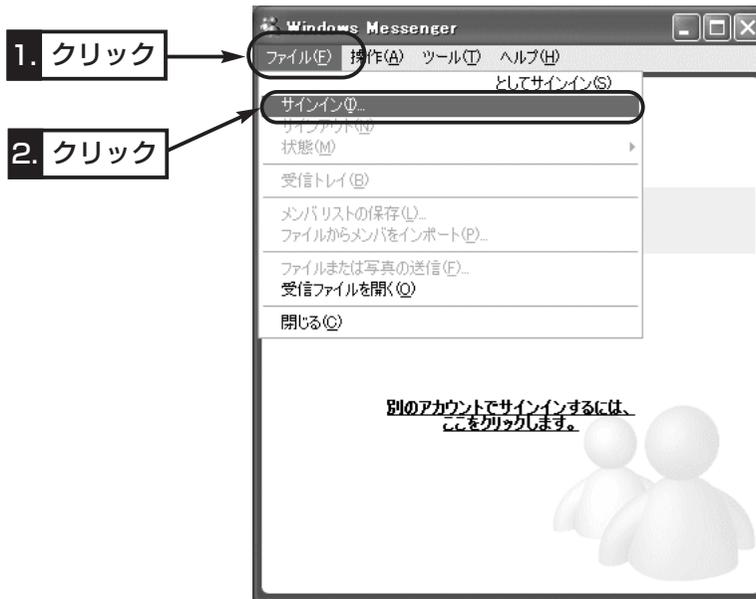


9-1.相手のパソコンとIP電話するには
 ② Windows Messengerの設定(つづき)

⑨ サインインしなおすため、「ファイル(F)」メニューから[サインアウト(N)]をクリックします。



⑩ 「ファイル(F)」メニューから[サインイン(I)]をクリックします。



※接続する相手を変更する場合は、ここで行った設定をその相手ごとに変更する必要があります。

9 ご参考に

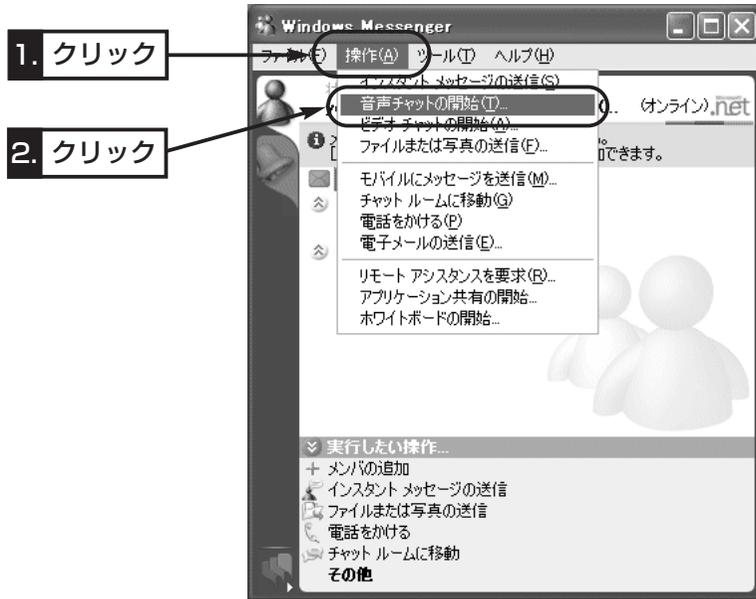
9-1.相手のパソコンとIP電話するには(つづき)

③ 「Windows Messenger」から本製品に電話をするには

「②」 「Windows Messenger」の設定で設定した接続先(本製品)に発信するには次の手順で操作します。

〈発信の手順〉

① Windows Messengerの「操作(A)」メニューから[音声チャットの開始(T)]をクリックします。

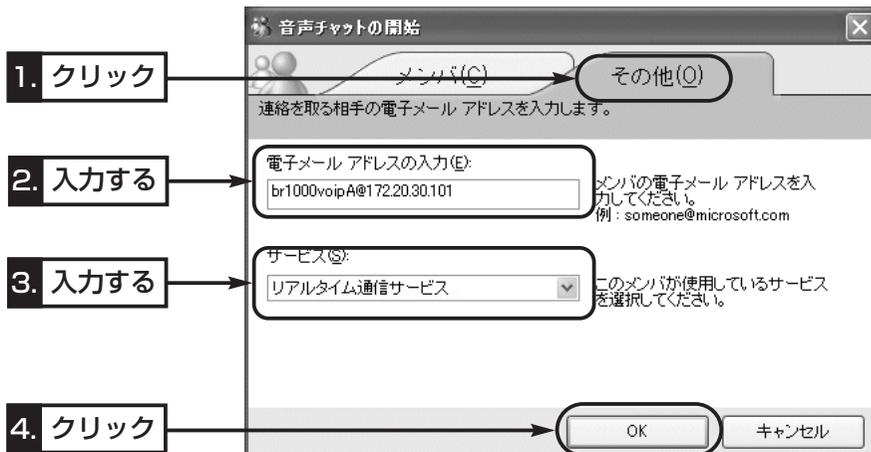


② [その他(Q)]タブをクリックして、通信相手のSIP URLを[電子メールアドレスの入力(E)]のテキストボックスに入力(例：br1000voipA@172.20.35.100)します。

※「@」以下は、(ホスト名.ドメイン名)でも入力できます。

③ [サービス(S)]のテキストボックスで、「リアルタイム通信サービス」を選択します。

④ <OK> をクリックします。

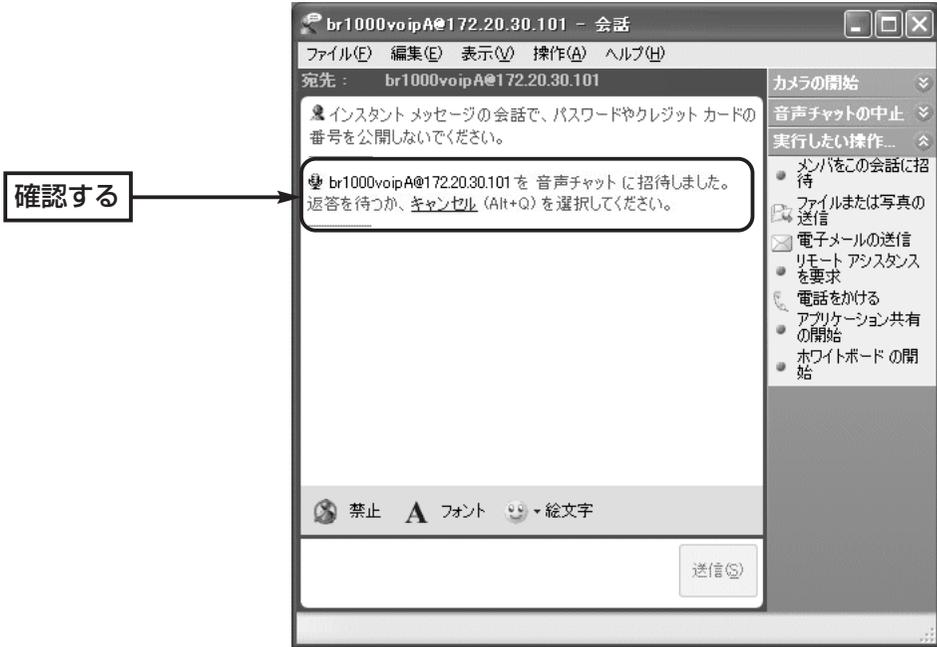


9-1.相手のパソコンとIP電話するには

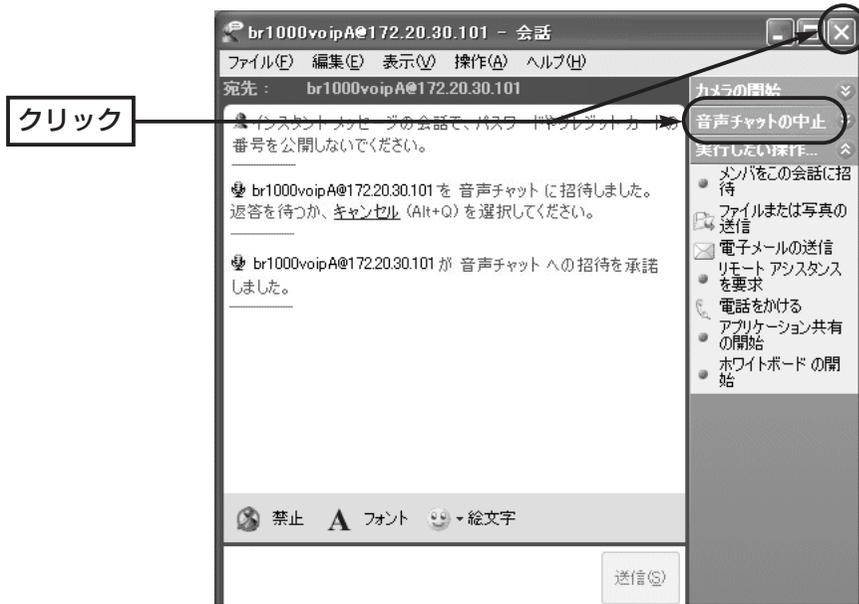
③ Windows Messengerから本製品に電話をするには(つづき)

- ⑤ 設定された相手先への発信を開始する画面が表示されたことを確認します。

※表示された画面の[マイク]アイコンに「×」が表示されているときなどは、発信に失敗していますので、互いの設定を確認してください。



- ⑥ 通話を切るときは、「音声チャットの中止」をクリックするか、下記の画面を閉じてください。



9 ご参考に

9-1.相手のパソコンとIP電話するには

④ 本製品から「Windows Messenger」に電話をするには

「②「Windows Messenger」の設定」で設定されている相手先に発信するには次の手順で操作します。

〈発信の手順〉

- ① 本製品の「VoIP電話帳」画面に、相手先(Windows Messengerを使用する相手)のSIP URLが登録されていることを確認します。
- ② 本製品に接続された電話機から、VoIP電話帳に登録した相手のSIP URLに対応する電話番号をダイヤルすると発信を開始します。
- ③ 通話を切るときは、本製品に接続された電話機の受話器を置いてください。

9-2.Telnetによる接続

Telnetによる接続方法とオンラインヘルプの見かたについて説明します。

ご使用のOSやTelnetクライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

■ Windows XP/Windows 2000の場合

- ① Windowsを起動します。
- ② [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
名前欄に「Telnet.exe」と入力し、〈OK〉をクリックします。
- ③ Telnetクライアントが起動しますので、下記のように指定します。
Microsoft Telnet>open 本製品のIPアドレス
(工場出荷時の設定：192.168.0.1)
- ④ [User]と[Password]が要求されます。
設定したユーザ名とパスワードを入力してログインしてください。
※初期値では[User]、[Password]ともに設定されていません。
何も入力せずに[Enter]キーを押してください。
- ⑤ ログインメッセージ(Welcome to BR-1000v!)が表示されます。

■ Windows 98/98 SE/Meの場合

- ① Windowsを起動します。
- ② [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
名前欄に「Telnet.exe」と入力し、〈OK〉をクリックします。
- ③ Telnetクライアントが起動しますので、メニューバーから[接続]→[リモートシステム]を選択します。
- ④ [接続]ダイアログボックスが表示されます。
ホスト名、ポート、ターミナルの種類を下記のように選択して、〈接続(C)〉ボタンをクリックします。
ホスト名：本製品のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)
ポート：telnet(23)
ターミナルの種類：vt100
- ⑤ [User]と[Password]が要求されます。
設定したユーザ名とパスワードを入力してログインしてください。
※初期値では[User]、[Password]ともに設定されていません。
何も入力せずに[Enter]キーを押してください。
- ⑥ ログインメッセージ(Welcome to BR-1000v!)が表示されます。

9 ご参考に

9-3.オンラインヘルプ オンラインで、コマンドリファレンスを参照することができます。

◎コマンド一覧 [Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。
コマンド名の入力に続いて[Tab]キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。

◎コマンドヘルプ コマンドの意味を知りたい時は、コマンド名の入力に続いて[?]キーを押すとコマンドのヘルプが表示されます。

◎コマンド名の補完 コマンド名を先頭から数文字入力し[Tab]キーを押すと、コマンド名が補完されます。
入力した文字に続くコマンドが一つしか無いときは、コマンド名を最後まで補完します。

例) cl[Tab]→clear

複数のコマンドがあるときは、同じ文字列の所までを補完します。
さらに[Tab]キーを押すと、コマンドの候補を表示します。

例) r[Tab]→re

re[Tab]→restart remote

res[Tab]→restart

ご不明の点がございましたら、岩崎通信機お客様ご相談センターへお気軽にご相談ください。
<お客様ご相談センター：☎ 0120-186102>

創造と豊かな対話のために

IWATSU 岩崎通信機株式会社

通信営業本部 〒168-8501 東京都杉並区久我山1-7-41

お客様メモ

お買い求めになった年月日、店名等をご記入ください。 修理を依頼される時やお問い合わせのときに大変便利です。		
設置年月日	年	月 日
設置店名		
住所		
電話番号		